

島文連



も く じ

山口県高等学校文化連盟の紹介	1
ごあいさつ	5
第 40 回山口県高等学校総合文化祭総合開会式（音楽 4 部門発表会）の報告	6
各部門の報告	7
演劇部門	7
合唱部門.....	9
吹奏楽部門	11
器楽管弦楽部門	13
日本音楽部門	14
マーチングバンド・バトントワリング部門	16
美術・工芸部門	17
書道部門	20
写真部門	22
放送部門	26
囲碁部門	28
将棋部門	31
小倉百人一首かるた部門	33
文芸部門	36
自然科学部門	41
全国高等学校総合文化祭に参加して.....	44
自主事業・補助事業の報告.....	45
参考資料	
平成 30 年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告	54
平成 30 年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書	55
平成 31 年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画	56
平成 31 年度 山口県高等学校文化連盟 会計予算書調整基金会計予算書	57
山口県高等学校文化連盟規約	58
山口県高等学校文化連盟諸規程	61
山口県高等学校文化連盟表彰規程	62
山口県高等学校文化連盟旅費支給基準	63
平成 30・31 年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧	64
全国高文連の歌	66

山口県高等学校文化連盟の紹介

山口県高等学校文化連盟には16の専門部会があります

演劇／器楽・管弦楽／合唱／吹奏楽／マーチング・バントワリング／日本音楽／吟詠剣詩舞／
美術・工芸／書道／写真／囲碁／将棋／放送／文芸／自然科学／小倉百人一首かるた

平成30年度第40回山口県高等学校総合文化祭開会式は、周南市文化会館で行われました。各部門の大会は、5月の小倉百人一首かるたと将棋を皮切りに、県内各地で行われました。

平成30年8月7日～8月11日、長野県にて第42回全国高等学校総合文化祭が行われました。山口県からは、県総文で選ばれた代表が出場しました。

【演劇】



演劇講習会



中国大会

【合唱】



県総文総合開会式慶祝演奏 合同合唱



音楽4部門発表会

【吹奏楽】



音楽4部門発表会



信州総文

【器楽・管弦楽】



音楽4部門発表会



信州総文

【日本音楽】



県総文日本音楽部門発表会



信州総文

【マーチングバンド・バトントワリング】



県総文総合開会式慶祝演奏



音楽4部門発表会

【美術・工芸】



県総文 講評会



信州総文

【書道】



県総文 講評会



信州総文

【写真】

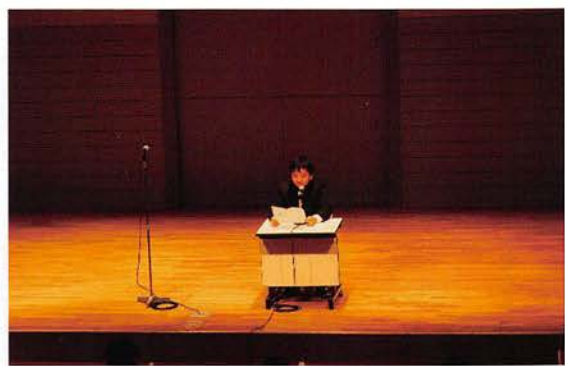


写真研修会



信州総文

【放送】



県総文



信州総文CM制作

【囲碁】



県総文



信州総文

【将棋】



県総文



信州総文

【小倉百人一首かるた】



中国大会



信州総文

【文芸】



俳句甲子園優勝



信州総文

【自然科学】



信州総文ポスター発表



信州総文研究発表



ご あ い さ つ

山口県高等学校文化連盟

会 長 阿 武 慎 治

皆様の御協力のもと、ここに平成 30 年度の山口県高文連の歩みを記した集録ができあがりましたことに感謝申し上げます。本連盟は昭和 62 年 6 月に発足し、30 年を超える歴史をもっています。本連盟の活動は、県内外のさまざまな文化・芸術活動への参加の拠点として、高校生の創造力の育成と豊かな心の醸成を行うことであり、今後も、各学校の文化部活動をつなぐ役割を果たしながら、高校生のさまざまな文化芸術活動を支援していきますので、引き続き御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

さて、本年度の第 40 回山口県高等学校総合文化祭は、「育む 創造のつぼみ 咲き誇る 文化の花」をテーマとした、記念すべき 40 回目の開催となりました。新鮮な感性で文化の魅力を見つめ、自分らしい表現を追求していく中で、『創造のつぼみ』を見事な『文化の花』に昇華していく高校生たちからは、多くの可能性を感じさせられました。また、6 月 14 日には、新南陽高校を主管として、総合開会式が周南市において盛大に開催されました。当日は、近隣の高校生が多く会場を埋め、力強く情熱にあふれる高校生の合同演奏を楽しみました。代表生徒の堂々としたあいさつ、慶祝演奏、慶祝展示は、高校生の情熱と力強さを感じさせる、見応え、聞き応えあるすばらしいものでした。

各専門部の大会は、5 月の将棋部門、百人一首かるた部門をスタートとし、12 月の美術・工芸部門の大会まで、8 か月にわたって県内各地で開催されました。日頃、熱心に取り組み、苦勞して作り上げた作品、妥協することなく練習を繰り返した演奏、技能だけでなく心も鍛えて望んだ対戦等を、余すことなく発表することで、一層のレベルアップを図ることができたことと思います。また、多くの学校が集うことで、生徒同士の貴重な交流の場となったのではないのでしょうか。さらに、講師や審査員として各分野の専門家が直接指導に当たってくださるので、文化・芸術の深みに触れる機会ともなりました。このように大きな成果を生んだ各大会を運営されました主管校や顧問の先生方に、この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後も一層充実した大会にさせていただきますよう、お願い申し上げます。

8 月には第 42 回全国高等学校総合文化祭（長野総文）が開催され、本県からは 13 部門、246 名が参加しました。美しい山並みに囲まれる信州の地で、全国のレベルを体感しつつ、のびのびと持てる力を十二分に発揮して、すばらしい演奏や競技、作品展示をしてくれました。また、他県の生徒たちとの交流も深めて、大きく成長してくれたものと思っています。ここで学んだ全国の文化を日々の活動に活かし、県内に広めるとともに、次年度の佐賀大会ではさらなる成果が生まれるよう頑張っしてほしいと思います。

そのほか、本連盟では高校生が優れた文化や芸術に直接ふれあって感性を高めることを目的に、自主文化事業や補助事業を企画し、希望の学校で開催しています。今後も、高校生の希望を取り入れながら、より多くの学校に参加していただける文化・芸術活動を積極的に企画していきたいと考えておりますので、ぜひ積極的に御活用をお願いいたします。

終わりに、本連盟の活動に御支援、御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。発刊の御挨拶といたします。

第40回 山口県高等学校総合文化祭

総合開会式（音楽4部門発表会）の報告

主管校 奥 中 淳 夫

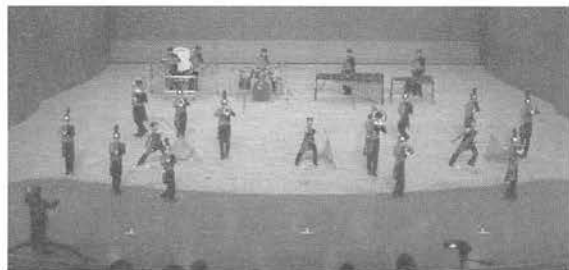
（新南陽高等学校教諭）

総合開会式(音楽4部門発表会)の記録

平成30年6月14日(木)～16(土)、周南市文化会館を会場に「育む 創造のつぼみ 咲き誇る 文化の花」のテーマの下、第40回山口県高等学校総合文化祭総合開会式並びに音楽4部門発表会が開催された。

総合開会式は山口県立新南陽高等学校を主管校として、また音楽4部門発表会は山口県立徳山高等学校を主幹とした周南地区関係高等学校の協力により、出演者や観覧者等、3日間でのべ約3,500人の参加を得て、盛会裏に終えた。

総合開会式は6月14日に実施された。開幕式典は、内山七虹(新南陽高校)さんの開会宣言と周南地区高等学校吹奏楽団によるファンファーレでスタートした。まず、映像とナレーションにより、山口県高等学校文化連盟の演劇や器楽・管弦楽等、16部門からなる専門部の紹介と自主事業等、山口県高文連の活動紹介を行った。続いて、主催者を代表して山口県高等学校文化連盟会長及び山口県教育委員会教育長が挨拶を行い、最後に主管校である新南陽高校を代表して、生徒会長の貞明春歌さんが挨拶した。その後、木村健一郎周南市長から歓迎の言葉をいただき、来賓紹介を経て、最後に優秀芸術文化賞、テーマ最優秀賞の表彰を行なった。



慶祝演奏 マーチングバンド

慶祝演奏は、日本音楽、マーチングバンド、吹奏楽、合唱、器楽・管弦楽の演奏を行った。日本音楽は、徳山高校邦楽部生徒17名が受け持ち、「備北讃歌」を情緒豊かに奏でた。マーチングバンドのステージは、山口県鴻城高校マーチングバンドが、部員20名の躍動感溢れる演奏演技による「マンジョーネ・オープナー」を披露した。次いで、周南地区の9校の吹奏楽部員83名による周南地域高等学

校吹奏楽団が、「マードックからの最後の手紙」を見事なサウンドでダイナミックに奏でた。最後に、県内の9校合同による総勢215名の山口県高等学校合唱団と、同じく県内の4校で編成された86名からなる山口県高等学校管弦楽団による合同演奏が行われ、「大地讃頌」「フィンランディア」の二曲が壮大なスケールで響き渡った。その興奮さめやらぬ中、ステージと客席全員でオーケストラ伴奏による「翼をください」を合唱し、総合開会式は幕を閉じた。

慶祝展示は、周南市文化会館大ホールロビーで行われ、県内の高校生による、美術・工芸15点、書道9点、写真10点の力作を展示した。また、演劇、囲碁等、5部門の専門部の大会風景等の活動写真パネルも展示し、文芸部門からは優れた文芸誌が出品された。展示は、音楽4部門発表会が開催される後半2日間も引き続き行なわれ、多くの来場者によって観覧された。

音楽4部門発表会では、6月15・16日の16日間にわたって、県内高校58校58団体、出演者総数2,069名が演奏、演技を披露した。最少3名の団体から最大143名の団体まで、どの団体も日頃の練習の成果を存分に発揮した。発表会初日の15日の全出場団体の演奏終了後に大会式を実施し、器楽・管弦楽部門会長である山口県立下関南高等学校山田哲也校長が挨拶を行った。

両日とも、最後に、ステージと客席全員で「翼をください」を合唱して一体感に満ちたエンディングを作り上げた。

高校生の行事としては県内最大級のイベントであるにもかかわらず、総合開会式、音楽4部門発表会共に無事終えることができ安堵している。ご協力いただいた大勢の方々に対してあらためて御礼申し上げます。



慶祝演奏 山口県高等学校合同合唱団・管弦楽団

各部門の報告

演劇部門

理事長 近 藤 真 美
(防府西高等学校教諭)

1 演劇部門活動報告

(1) 第42回全国高等学校総合文化祭(演劇部門)

第64回全国高等学校演劇大会(長野大会)

8月7日～9日

長野県上田市サントミュージゼ

「信州総合文化祭について」

新南陽高校 3年 戎谷 光

私は、信州総合文化祭に生徒講評委員として参加することができて誇りに思う。

始めは、緊張してなかなか人と話すことができなかったが、開会式の生徒講評委員の劇発表(交流会)の練習を重ねるにつれて徐々に緊張が解けて他の講評委員と話せるようになった。その中で出た方言の話題では様々な地域の方言を聞いて勉強になったし、全国大会での講評委員会で感じられる楽しみの一つだと思った。

最初はいまいきかなかった討論も、重ねていくにつれて、時間配分を考えて話すことでフリートークの時間を十分に確保できるようになり、活発に意見交換が行われた。討論の進行や記録を務める司会、書記、板書の三役をローテーションでおこなったが、十分にそれぞれの役を務めることもでき、各上演校に対する討論を充実したものにする事ができた。また、講評文作成では、同じグループメンバーと協力して作成し、討論の内容を観客に伝えることができた。そして、すべての上演が終わったあとの上演校と生徒講評委員会の交流では、大道具や照明などの演出や脚本について語り合い、互いの考えを共有した。

講評委員会の5日間はとても忙しかったが、中身の濃い5日間でもあった。講評活動で得た知識を今後の演劇活動に生かし、後輩にアドバイスしていきたいと思う。

※戎谷さんは、中国地区代表として参加しました。

(2) 第40回山口県高等学校総合文化祭(演劇部門)

山口県各地区高等学校演劇協議会演劇発表会

周防地区 8月23日 山口県民文化ホールいわくに

山防地区 8月18日 山口南総合センター

宇部地区 8月19日 不二輸送機ホール

下関地区 8月8日・9日 下関市生涯学習プラザ

今年度も、地区大会は8月に県内4地区で行われました。全上演校23校のうち、17校もの学校が創作脚本に挑戦していました。中でも周防地区と宇部地区は、全てが創作脚本での上演という、驚きの創作ブームが起きたのが今年の特徴でした。県内高校生たちの演劇に対する熱い意気込みを感じた夏でした。

(3) 演劇講習会

①生徒対象「演劇とは何ですかの問いに答えよう！」

9月23日 宇部中央高校 体育館

②顧問対象「劇的な瞬間の作り方」

9月22日 宇部中央高校 会議室



講師の篠崎先生と参加者

今年度の演劇講習会は、県大会講師として永年お世話になった篠崎光正先生をお迎えし、生徒対象と顧問対象の2本立てで実施しました。生徒対象には16校117名、顧問対象には18名が参加しました。

(4) 第40回山口県高等学校総合文化祭(演劇部門)

第37回山口県高等学校演劇大会

11月10日・11日

防府市公会堂

講師は昨年度に引き続き、劇作家の篠原久美子先生でした。従来の幕間講評を変更し、今回は閉会式前にまとめて御講評をいただいたことで、より落ち着いてしっかりとアドバイスを理解できたように感じます。

また、審査員は優秀校を好みで選ぶのではなく、これまで生きてきた演劇人生をかけて選ぶのだというメッセージをいただいたことには感銘を受けました。以下にお話いただいた「審査基準」を記します。必ず各校の今後の作劇に生かされることと思います。

1. 心を動かされたかどうか？ 2. ハッとするような新しい試みがあり、それが成功しているかどうか？ 3. 細部にわたって丁寧に創られているかどうか？ 4. 舞台の上で生きたやりとりが行われており、それが客席に伝わっているか？ 5. 舞台に関わる皆が、真剣に楽しんでいることが伝わっているかどうか？

(参考: 東京都高等学校演劇連盟城東地区サイト)

(5) 第56回中国地区高等学校演劇発表会

11月24日・25日

とりぎん文化会館

鳥取県で開催された中国大会に、山口県代表として光

丘高校と下関中等教育学校が出場しました。両校ともに、脚本、演技、演出、道具など舞台上の全てに工夫が凝らされ、大きな熱量が感じられました。そして、最後にはさわやかな感動が心に訪れる作品を上演してくれました。審査の結果、光丘高校が中国2位にあたる全国高等学校演劇協議会会長賞を受賞し、3月に愛知県で行われる「春フェス」出場校に選ばれました。



光丘高校「□〇ル葉桜(かくまるるはざくら)」

2 第40回山口県高等学校総合文化祭(演劇部門)・第37回山口県高等学校演劇大会記録

◎は最優秀校(中国大会出場) ○は創作脚本賞 ※は創作

西京高等学校	※サクラ	西京高校演劇部／作
下関商業高等学校	べいべー	青山 一也／作、下関商業高校演劇部／潤色
◎光丘高等学校	※□〇ル葉桜	緋岡 簪／作
宇部中央高等学校	※惑星より人間達へ	左本 詩織／原案、宇部中央高校演劇部／作
下関西高等学校	それはいえない	中原 久典／作、下関西高校演劇部／潤色
○山口高等学校	※あおにとける	川上 そよ香／作、山口高校演劇部／潤色
宇部高等学校	※みんなの荷物のせおいかた	飯田 千紘／原案、宇部高校演劇部／作
岩国高等学校	※“脇役”たちの話	濱川 真純／作
◎下関中等教育学校	※老町工業高校前発青春行き	あずまや太郎／作
山口中央高等学校	それはいえない	中原 久典／作、山口中央高校演劇部／潤色

生徒講評部門最優秀賞(中国大会出場) 上野慶太郎(防府西高校)・大橋潤都(サビエル高校)

講師・審査員

篠原 久美子 (劇作家、劇団劇作家代表、昭和音楽大学非常勤講師)

伊藤 馨 (照明家、日本照明家協会理事、Ottiオッティ代表)

奥本 泰河 (山口県立華陵高等学校教諭、演劇部顧問)

各部門の報告

合唱部門

理事長 杉 山 和歌奈

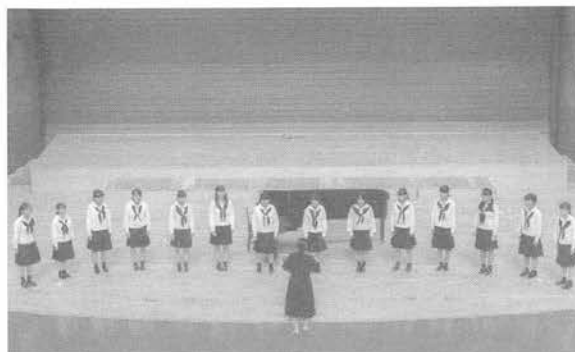
(萩光塩学院高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟合唱部門では、今年度次のような事業を行いました。

1 活動報告

(1) 平成30年度第40回山口県高等学校総合文化祭総会合式において慶祝演奏

- ・6月14日(木)
- ・山口県高等学校管弦楽団との合同演奏
- ・曲目/「フィンランディア賛歌」
“カンタータ《土の歌》より「大地讃頌」”
- ・山口県高等学校合唱団/9校 226名
- ・会場/周南市文化会館



(2) 平成30年度第40回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

- ・6月15日(金)、16日(土)
- ・合唱部門出演者/7校 153名
- ・会場/周南市文化会館



(3) 平成30年度山口県高等学校文化連盟合唱部会及び研修会

- ・平成30年12月6日(金)
- ・出席者/部会長以下9名
- ・議題/県総文、全総文、高文連表彰などについて
- ・会場/萩光塩学院体育館2階会議室

(4) 山口県高等学校合唱講習会

- ・平成31年2月2日(土)
- ・講師/吉田 稔先生(合唱指揮者、ヴォイストレーナー)
- ・内容/演奏技術向上のための講習会
- ・会場/ニューメディアプラザ山口

2 山口県高等学校総合文化祭の記録

会場：周南市文化会館

平成30年度第40回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が、6月14日(木)「周南市文化会館」にて盛大に開催されました。例年のように、器楽・管弦楽部門と合唱部門と合同で慶祝演奏に参加しました。オーケストラと共に、9校226名の大合唱は、広い会場に美しく響き渡りました。生徒たちの熱い気持ちの入った、高校生らしいさわやかな歌声は、満員の聴衆の方々にも深い感銘を与えたことと思います。日頃小人数で部活動をしている生徒が多いため、他校との合同合唱は勿論のこと、オーケストラとの共演はとても貴重な体験になりました。

また、翌日からの音楽4部門の発表は、6月15日(金)、16日(土)の2日間、高校生の気迫あふれる演奏が続きました。今年度の合唱部門出演校は、7校153名が参加しました。各校の特色を生かしたプログラムとなっており、美しく柔らかな歌声が会場を包み、個性豊かな演奏を披露しました。

合唱人口は年々減少しており、各校部員の確保が難しい状態が続きました。しかし、ここ数年で徐々に部員が増え、現在は200名を超える部員数となってきています。今後も生徒数の減少や指導者不足等の問題はありますが、この総合文化祭を契機に各校の生徒同士が切磋琢磨して、より質の高い音楽を奏でられるように願っています。来

年度の「宇部市渡辺翁記念会館」でも、素晴らしい演奏を期待しています。

山口県高等学校総合文化祭を終えて

萩光塩学院高等学校合唱部

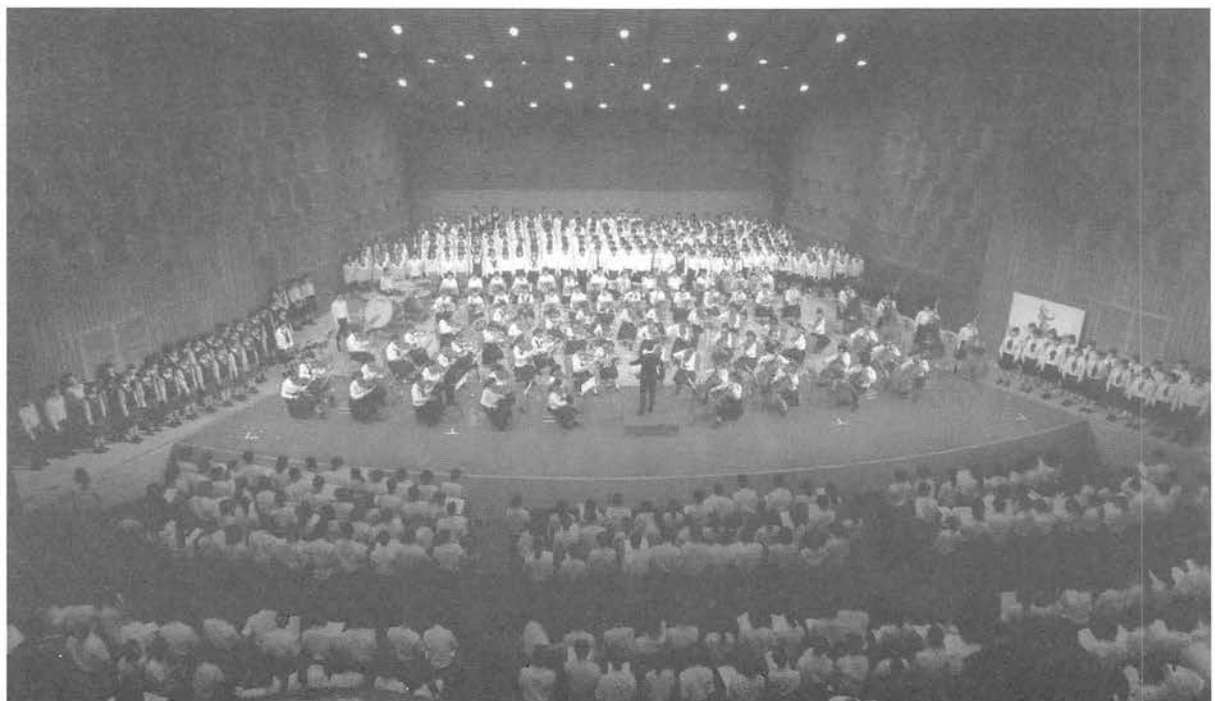
部長 土田有加

私たちは普段10名程度の少人数で部活動をしています。部員同士の仲も良く、少人数であることに不満を持ったことや困ったことなどはありません。しかし、年に1回のこの山口県高等学校総合文化祭総合開会式での慶祝演奏は毎年楽しみにしていました。200人を超える大合唱、普段の女声合唱とは厚みの違う混声合唱。全てが新鮮で、毎年歌っていても感動します。

今年も「フィンランディア賛歌」と「大地讃頌」、「翼をください」の3曲をオーケストラと共に演奏し、周南市文化会館のホールに歌声が響き渡りました。私にとっては高校生活最後の総合文化祭でしたので、1曲1曲を大切に、楽しんで歌うことを心掛けました。

オーケストラの演奏に合わせ、このような大人数で歌うことは今後もうないかもしれません。この3年間贅沢な経験をさせてもらったと思っています。

他校との交流もでき、合同合唱の楽しさを教えてくれたこの慶祝演奏が、ずっと続いてほしいと願っています。



各部門の報告

吹奏楽部門

理事長 中 村 亮

(光高等学校教諭)

1 平成30年度の吹奏楽専門部の活動報告

(1) 第40回山口県高等学校総合文化祭総開会式式典における慶祝演奏

- ・ 開催日 平成30年6月14日(木)
- ・ 会場 周南市 周南市文化会館
- ・ 参加演奏 周南内高等学校吹奏楽団
(徳山、下松、光、新南陽、華陵、光丘、熊毛北、徳山商工、聖光)
- ・ 演奏曲目 マードックからの最後の手紙(樽屋雅徳作曲)
- ・ 指揮 井町 好子(徳山高等学校)



(2) 第40回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会・第69回山口県高等学校連合音楽会

- ・ 開催日 平成30年6月15日(金)、16日(土)
- ・ 会場 周南市 周南市文化会館
- ・ 参加演奏 52団体 1,500余名



(3) 第42回全国高等学校総合文化祭

- ・ 開催日 平成30年8月9日(木)、10日(金)
- ・ 会場 長野県松本市 キッセイ文化ホール
- ・ 参加演奏 山口県立徳山高等学校(2日目 プログラム7番)
- ・ 演奏曲目 ウインドオーケストラのためのマインドスケープ(高昌帥作曲)
風になりたい(宮沢和史作曲/佐藤博昭編曲)
- ・ 指揮 井町 好子(徳山高等学校 吹奏楽部顧問)

(4) 吹奏楽専門部総会・研修会

- ・ 開催日 平成30年12月5日(水)
- ・ 会場 山口県立光高等学校会議室・音楽室
- ・ 参加人数 32名
- ・ 講師 江原 大介先生(作・編曲家)

2 山口県高等学校総合文化祭の記録

平成30年度第40回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が、6月14日(木)に周南市の周南市文化会館で開催されました。開会式典での慶祝演奏には、徳山高等学校の井町好子先生指揮・指導の下、徳山、下松、光、新南陽、華陵、光丘、熊毛北、徳山商工、聖光、各高等学校の3年生、総勢約80名が、本専門部を代表して参加いたしました。本番では、処女航海で冰山との衝突により沈没した「タイタニック号」の航海士であり、船が沈む最後の瞬間まで勇敢に乗客の救出にあたったとされるマードックの姿を描いた「マードックからの最後の手紙」を演奏いたしました。出航前から沈没後まで、それぞれの場面の描写やマードックの心情が見事に表されており、会場を感動の渦に巻き込む、素晴らしい演奏でした。

また、6月15日(金)と16日(土)には、同会場において音楽4部門発表会を開催いたしました。この2日間で、52団体、1,500余名が日頃の練習の成果を発揮し、立派な演奏を披露いたしました。

この発表会を通して、同じ意識を持つ多くの仲間の存在に気づくとともに、新たな音楽の表現を創造する意識が高まることを期待しています。

3 全国高等学校総合文化祭吹奏楽部門参加報告

山口県立徳山高等学校吹奏楽部
部長 近藤 優歩

私たち徳山高校吹奏楽部は、8月10日(金)に長野県で開催された第42回全国高等学校総合文化祭・信州総文祭に参加させていただきました。長野県は自然が豊かで、松本城などの史蹟もあり素敵な所でした。私たちは2日目に出演させていただき、吹奏楽コンクールの自由曲でもある「ウインドオーケストラのためのマインドスケープ」と、最近CMでも流れている「風になりたい」を演奏しました。

今回、講師の一人が「マインドスケープ」の作曲者でもある高昌帥さんで、作曲者ご本人に私たちの演奏を聴いてもらえるということでもとても緊張しました。同時に、あのサイトウキネンが行われるキッセイ文化ホールで演奏できる！と

いうことでわくわくしました。またコンクールの後一週間、もう一度この曲と向き合い、曲を通して何を届けたいのかを見直す良い機会になりました。「風になりたい」ではポンチヨを着てパフォーマンスをするなど、お客さんに喜んでいただけるよう演出にこだわりました。2曲とも自分達の最大限の力を出し切り、思いの込められた演奏になったと思います。会場からも自然と手拍子が起こり、盛り上げて下さったお陰で私たち自身もとても楽しみながら演奏することができました。

また、全国から集まったレベルの高い演奏を聴くことができ、とても勉強になり良い刺激となりました。同じ音楽を奏でる者同士が同じステージでお互いを高め合うことは本当に素晴らしいことだなあと実感しました。

演奏面以外でも運営の方々のおもてなしのすばらしさに圧倒されました。長野県の実行委員の生徒で企画された交流会では、お互いの地元について知ることができるコーナーやクイズなどが用意されていました。全国各地から集まった高校生と楽しい時間を過ごし、演奏以外で会場が一つになっていたのも全国総文ならではの感じました。

今回このような貴重な機会を与えていただいたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。この貴重な経験を糧に更に日々の練習に励み、これからも音楽に携わっていきたいと思います。ありがとうございました。



各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 秋 本 隆

(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行いました。

1 第40回山口県高等学校総合文化祭総会開会式における合唱部門と合同による慶祝演奏

期 日:6月14日(木)

会 場:周南市文化会館

演奏曲目:佐藤 眞作曲 カンタータ《土の歌》より“大地讃頌

シベリウス作曲 交響詩《フィンランディア》

村井 邦彦作曲《翼をください》

指 揮:奥中 淳夫(山口県立新南陽高等学校教諭)

演 奏:山口県高等学校管弦楽団・合唱団

2 第40回山口県高等学校総合文化祭音楽関係4部門発表会

期 日:6月15日(金)、16日(土)

会 場:周南市文化会館

演奏種目:参加各校によるオーケストラ、弦楽合奏、ギター・マンドリン合奏の演奏

参加人数:6校/304名



3 第42回全国高等学校総合文化祭(2018信州総文祭)

期 日:8月8日(水)、9日(木)

会 場:長野県長野市・ホクト文化ホール

参 加 校:山口県立山口高等学校

演奏曲目:リムスキー・コルサコフ作曲/シェヘラザードから

第42回全国高等学校総合文化祭信州大会の記録

山口県立山口高等学校管弦楽部

顧問 中川 聡

1931年、管弦楽部員たちがこよなく愛する山口高校記念館(旧制山高講堂)で、当時の学生たちによって初めてストリングス・オーケストラが産声をあげ、「タンホイザー序曲」が演奏されたという記録が残っている。N響の前身であ

る新交響楽団設立の年からわずか5年後である。学制改革後、現山口高校が記念館を引き継ぎ1950年に管弦楽部が正式に誕生しているが、1922年の記念館建立後約100年の間に、どれだけの先輩方がこの記念館で青春の響きを奏でて来られたのかと思うと、その歴史の重みに胸がいっぱいになる。

長野県のホクト文化ホールは、私たちの記念館の木造建築の響きを2000人のお客様が同時に体感できるような音響特性を持つ素晴らしいホールであった。部員たちの演奏のモチベーションも 自然に아가리「どうやったら高校生にこんな演奏ができるのでしょうか」と御称揚いただいた講評に部員たちは素直に喜んだ。器楽・管弦楽部門へ初めて派遣していただいたことに感謝する。



4 平成30年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

期 日:12月3日(月)

場 所:下関南高校会議室

議 題:第38回器楽・管弦楽スプリングコンサート(柳井大会)について
県総文、全国総文、高文連表彰、など

5 第38回山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽スプリングコンサート

期 日:平成31年3月27日(水)

会 場:サンビーム柳井

主 管 校:山口県立柳井高等学校

演奏団体:部門所属7校によるギター・マンドリン・弦楽合奏・管弦楽の演奏

今年度の全国高等学校総合文化祭(長野大会)においても、本県代表の山口高校管弦楽部が素晴らしい演奏を披露いたしました。本県の器楽・管弦楽部門のレベルは全国的に見ても、非常に高いものであり、次年度以降ますます発展していくことと期待しています。

各部門の報告

日本音楽部門

理事長 平 田 直 子

(野田学園高等学校教諭)

1 平成30年度日本音楽部門の活動報告

今年度の日本音楽部門の活動は6月14日(木)、総合開会式(周南市文化会館)での徳山高等学校部の慶祝演奏で幕を開けました。6月16日(土)には中村女子高等学校の主管により山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門発表大会が開催されました。この日のために練習を積んだ各校生徒達は、それぞれの持ち味を存分に発揮しました。日本音楽と一括りになってはいても、箏曲、長唄三味線、和太鼓と多彩な内容なので、普段は触れることのない他ジャンルの演奏に感銘を受け、大変有意義な一日を過ごしました。

第42回全国高等学校総合文化祭「2018信州総文祭」の日本音楽部門は8月10日(金)～8月11日(土)に塩尻市レザンホールで行われ、県の代表として下関南高等学校箏曲部が見事な演奏を披露しました。次年度の佐賀大会には早稲高等学校が郷土芸能部門に参加する予定です。



2 平成30年度山口県高等学校総合文化祭を終えて

中村女子高等学校(主管校)

琴部顧問 五嶋 元美

6月16日(土)、山口県健康づくりセンター 多目的ホールにおいて、第40回山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門発表大会が、箏曲13校、和太鼓2校、長唄三味線・郷土芸能各1校、全17校(演奏生徒数183名)の参加で盛大に開催されました。

本来であれば、本大会は、山口市市民会館で開催される予定でした。しかし、本校の不手際で音響設備が不十分で、ステージも狭い山口県健康づくりセンターでの開催となりました。出演生徒の多い箏曲の出演校にはステージ

の端から端まで詰めて座って演奏してもらいました。また、和太鼓と郷土芸能の学校には、客席1階可動席の前側を撤去した臨時ステージと本ステージ舞台の両方を使った特殊な舞台配置でのパフォーマンスとなりました。そのような変わったホールでの演奏にも関わらず、気持ちよく主管校の要望を聞き入れ演奏に踏み切って下さった日本音楽部門の顧問の先生方や各学校外部講師の方々に心からお礼申し上げます。

さて、そのような特殊なホールでの演奏となった本大会ですが、各学校とも日頃の練習の成果を発揮した素晴らしい発表の場となりました。古典の名曲からポップスや現代曲、学校に代々受け継がれる創作曲など演奏する曲は多岐に渡っていましたが、さまざまな楽器を用いながらも、和楽器の魅力である優しい音色や響きを観客の皆さんに十分に伝えることができたと思います。午前中の最後には各学校の代表生徒による合同演奏があり、10校16名の生徒たちが八橋検校作曲「六段の調べ」を演奏しました。ふだんはそれぞれの学校で別々に活動している生徒たちが一緒にステージに立つことができたのは貴重な機会でした。また、日頃は他校の優れた演奏を聴く機会の少ない生徒達にとって、本大会は自分達のこれまでの練習を振り返る学習の場でもあります。お互いに他校の優れた演奏を聴いて、これまでの演奏技法や練習方法について見直し、来年度の大会でどのような演奏をするか考えさせられた一日でもありました。

講評の有富美子先生からは、日本音楽に携わる生徒たちへの心温まる激励とともに、「音楽は流れるようなメロディーとリズムが大切」というお話がありました。来年度の大会に向けて、また新たな気持ちで練習に励んでいきたいと思っています。



3 第42回全国高等学校総合文化祭に参加して

山口県立下関南高等学校

箏曲部 嶋田 帆花

今回の信州総合文化祭では、県の総合文化祭とは違うところがたくさんあり、驚きました。リハーサルがあること、入退場も審査に入ること、一つ一つの動作に制限時間が設けられていること、段階に沿って部屋が細かく分けられていたこと、などです。

リハーサルは二日間あり、私たちは二日目の午前中にありました。リハーサルだけで3時間かかります。リハの時は動画が取れるので、それを見てリハ後の練習や本番直前の最終確認に使いました。リハーサルは午前で終わり、その日の午後は近くの公民館の和室を借りて練習しました。先生の友人で軽井沢在住の方も来てくださり、指導してくださいました。長旅やリハの疲れから一瞬うとうとする部員もいたくらい大変でしたが、公民館では約5時間練習しました。この練習で出だしがきれいに揃うようになりました。また、個人の苦手な部分や強弱などをしっかり練習し、公民館に入ってからすぐと、帰る直前との音の違いをはっきりと感じ取ることができました。

本番では、琴を打楽器のように叩いたり、棒などの道具を使ったりなど、これまでに見たことのない演奏法の学校が多くあり衝撃を受けました。また、琴を下に置くタイミングや向きを完璧に揃え、所作も美しい学校が多く、私たちはそこまでの練習をしていなかったもので、反省しました。本番

は、もちろん緊張しましたが、今までの成果を十分発揮できたと思います。自分たちが大好きな曲を、心を込めて演奏しました。普段めったに褒めてくれない先生が、「これまでで一番きれいな音色でした。」と言ってくださりみんな涙が止まりませんでした。

信州総文祭に参加することで、練習時間は増え、大変でしたが、以前よりも箏と真剣に向き合えるようになりました。学校の先生から、「10年いるが、こんなに箏曲部から音が聞こえたことはない。ただ弾いているだけでなく、きれいな音を出そうとしているのが分かる。」と言っていたことは忘れられません。苦しいけれど仲間がいれば頑張れる、続けていけばうまくなれる、褒めてもらおうともっとやる気がでる。このことを実感できた夏でした。



2018信州総文
マスコットキャラクター
“信州なび助”



各部門の報告

マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 中 村 亮

(光高等学校教諭)

1 第40回山口県高等学校総合文化祭総合開会式式典における慶祝演奏

平成30年6月14日(木)に、周南市文化会館で開催された総合開会式での式典慶祝演奏に、部門を代表して山口県鴻城高等学校が出演いたしました。本番では、顧問の内田良一先生の指揮で、「マンジョーネ・オープナー」を演奏し、演奏に合わせ息の合った演技を披露いたしました。



(総合開会式 慶祝演奏①)



(総合開会式 慶祝演奏②)

2 第40回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

平成30年6月15日(金)・16日(土)に、周南市文化会館で開催された音楽4部門発表会に、山口県鴻城高等学校、慶進高等学校の2校が参加いたしました。

部門からの参加団体が減少傾向にある中、山口県鴻城高等学校はマーチングで、慶進高等学校はバトントワリングでそれぞれ見事な演奏・演技を披露してくれました。



3 第42回全国高等学校総合文化祭

平成30年8月9日(木)に長野県長野市のオリンピック記念アリーナで開催されました。今年度も本県内の他の行事と日程が近いことや、自校の行事との関係で参加は困難でした。

4 マーチングバンド・バトントワリング部門研修会

- ・ 開催日 平成31年3月26日(火)
- ・ 会場 愛宕スポーツコンプレックスアリーナ
- ・ 内容 ① マーチング基礎(動き)
② バッテリー(マーチング打楽器)レッスン
③ ステージドリルレッスン

マーチングバンド・バトントワリングを実施する学校は年々減少しておりますが、定期的な研修会を実施することで県内の同部門活性化の一助となればと考え、昨年度より研修会を再開いたしました。

各部門の報告

美術・工芸部門

理事長 濱 崎 洋
(徳山高等学校教諭)

平成30年度美術・工芸部門の活動について報告いたします。

1 第40回山口県高等学校総合文化祭 美術・工芸部門

12月11日から16日まで下関市立美術館で開催されました。美術・工芸部門には県内38校より134点の出品がありました。内訳は平面129点、立体5点です。レベルの高い大作が多く、平面では89点の作品が50号やB1の出品規定最大のサイズでした。審査では30点が優秀賞に選ばれ、その中から6点が来年度の全国高等学校総合文化祭(2019さが総文)の出品候補作品に選ばれました。講評会では5名の各審査員が「美術作品として何をどのように表現したのか」を問いかけながら、それぞれの作品の良さや表現方法などについて話をされました。生徒たちは互いの作品を鑑賞し合うことで美術表現についての視野を広げることができ、今後に向けてのよい原動力となりました。



優秀賞(全国高総文祭出品候補作品)

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
岩国高等学校	田中 美帆	2	海が還る処	F50 横	絵画
光丘高等学校	新山 董	2	私のはかない世界	B1 縦	絵画
光丘高等学校	小林 ほのか	2	タイム CAP セル	100 cm×100 cm×高さ90 cm	立体・デザイン
徳山高等学校	青木 寧音	2	わくわく病	F50 縦	絵画
下関商業高等学校	河野 明日奈	2	捕食者	F50 縦	絵画
サビエル高等学校	大原 まりか	1	生きづらい	B1 横	絵画

優秀賞

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
岩国高等学校	中部 安梨	2	我的台湾日記	F50 縦	絵画
岩国総合高等学校	浅田 絵理奈	3	箱入り娘	F50 横	絵画
岩国総合高等学校	神村 采花	3	心の赴くまま	B1 縦	デザイン
岩国総合高等学校	河本 莉世	3	まだ飛ばさないで	F50 縦	絵画
岩国総合高等学校	久保 千優	3	MORU	F50 縦	絵画
柳井高等学校	渡邊 舞	1	ないものねだり	F50 縦	絵画
熊毛南高等学校	晝田 望	2	Nature	F50 縦	絵画
下松高等学校	松浦 芽依	2	無垢の歩み	B1 縦	デザイン
徳山高等学校	蔵田 侑里	2	求めるもの	F50 縦	絵画
徳山高等学校	江村 健真	2	→ (おもう)	F50 縦	絵画
防府西高等学校	桑原 百加	3	blue moment	B1 縦	絵画

防府西高等学校	古河 龍依	3	目覚めの群星	B1 横	絵画
防府西高等学校	橋本 結衣	3	築く	42 cm×43 cm×高さ46 cm	立体・デザイン
山口高等学校	濱谷 美里	3	I	F50 縦	絵画
宇部西高等学校	三浦 拓真	3	純白と阿呆達の世界	B1 縦	デザイン
下関南高等学校	峯村 菜々美	2	臆怠	F50 横	絵画
下関南高等学校	竹長 恵梨	2	決心	F50 縦	絵画
下関中等教育学校	中河 彩海	1	純粹	F50 縦	絵画
下関中等教育学校	大庭 輝良々	3	憧れ	B2 横	絵画
下関商業高等学校	田中 里奈	2	迫る前に	B1 横	デザイン
下関商業高等学校	初 真之介	2	やめて	F50 横	絵画
宇部フロンティア大学付属香川高等学校	定光 咲季	3	自己嫌悪	A1 縦	絵画
サビエル高等学校	藤田 朝美	2	i	B1 縦	デザイン
サビエル高等学校	藤本 恭子	3	奏	F30 横	絵画

2 第42回全国高等学校総合文化祭(2018信州総文祭)美術・工芸部門

8月7日(火)～8月11日(土)の5日間、全国の都道府県で選ばれた絵画、彫刻、デザイン、版画、工芸、映像等402点の優秀作品が、サントミュージゼ(上田市立美術館)に展示されました。その中にあって、本県から出品した作品6点はそれぞれに作者の思いや気持ちが込められた完成度の高い作品として全国にアピールしていました。全国のレベルの高い作品を鑑賞した本県6名の生徒も大きな刺激を受け、美術文化活動への関心を深め、今後の表現力を高める原動力にもなったことと思います。なお、この大会では優劣をつける審査等は実施していません。全員に「文化連盟賞」の賞状が授与されました。

部門開会式、講演・講評会は美術館のあるサントミュージゼ内の大ホールで行われました。オープニング映像では、美術・工芸部門の作品紹介や活動の様子、長野県の歴史や名所が映像効果を交えてテンポよく上映され、その後の開会式では全国高文連美術・工芸の澄川利之会長から、「全国から集いし美術・工芸を愛するみなさんが、仲間とともに解のない問いに向き合い、答えを探し求める中で、成長する自分をここ信州で見つけて下さい。」という内容のあいさつがありました。

講演会・講評会では現代芸術家のヤノベケンジ先生をお迎えして、講演会では「怒濤の自作語り」という演題で「アートで社会をかえる」プロジェクトを紹介され、講評会ではご自身が選んだ24作品について講評されました。ある意味プロの作品展を見るより刺激がある、選んだ作品は僕個人の評価や趣味で選んだことを最初に言われて、その後、立体9点、平面15点を講評されました。「シュールな世界は僕の趣味」「新しい感性を認めて伸ばすことが大切」「先生がこういう作品を認めたのがうれしい」「目的に対して

どう設計するかが大切」などのことばが印象的でした。

交流会は各都道府県の参加生徒が約90の班に分けられ、「交流会①」では「作者の願いや想いを語り交流をしよう」ということで対話型鑑賞を行いました。「交流会②」では「りんごの張り子でサイン交換」Peace Apple Projectということで、りんご張り子に参加者同士がサイン交換を行い、りんご張り子は各自記念に持ち帰りました。山口県から参加した生徒は、参加申し込み締め切り前日の日程変更で1校を除いて参加できなかったのが残念でした。



以下、参加した生徒のみなさんより感想をいただいています。

山口県立岩国総合高等学校 3年 久保 千優 題名「愛すべき未来へ」

信州総合文化祭で、私はたくさんの刺激を受けることができました。1番印象に残っていることは、山口県の高校生達と交流できたことです。興味を持った作品について感想を話し合う対話型鑑賞をしたり、お互いの進



路について語ったりしました。自分にはない意見や考え方があり、新しいことをたくさん学ぶことができて嬉しかったです。

山口県立徳山高等学校 3年 前田 智咲 題名「影の来訪者」

この度、全国高総文祭に参加することができ、たくさんのすばらしい作品を鑑賞したことで創作意欲が高まり、いい刺激となりました。また、山口県の他の高校の人達と一緒に作品について考え意見交換をするなど、普段しないような会話ができ、作品への理解や関心が深まりました。これらの貴重な体験を今後の制作に生かしたいです。



山口県立防府西高等学校 3年 古河 龍依 題名「模倣犯」

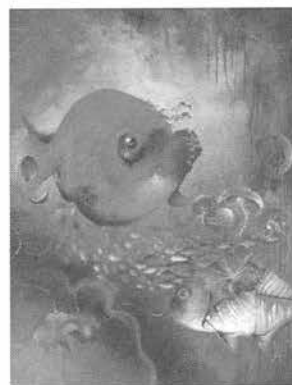
全国総合文化祭では、貴重な体験をすることができました。全国から集まった作品はどれも素晴らしく感動しました。山口県のみならず、対話型鑑賞をしたことで、自分の作品について改めて考えることができました。また、いろいろなものを見方や考え方をすることもできました。この経験を生かし、もっと面白い作品を描いていきたいです。



下関商業高等学校 3年 植野 愛美 題名「食物連鎖」

私は、今回長野県で行われた全国高等学校総合文化祭に参加してたくさんのことを学びました。会場に飾られて

いた全国の絵画はとてもレベルの高いもので、私の想像をはるかに上回っていました。作品から伝わる作者の想い、愛情が強く伝わってきました。私も総文祭で学んだ絵に対する姿勢をこれからの作品に生かして生きたいです。



野田学園高等学校 3年 藤田 晴菜 題名「関門海峡 花火大会」

私はとても楽しい充実した二日間を過ごすことができました。自分の作品が上田市立美術館に展示



されたことはとても誇れることでした。全国各地から来られた生徒と作品を作るにあたっての手法やエピソードなどの質疑応答や意見交換、また地元の風土の話などができたことは私の今後の活動に大きな契機を与えてくれた貴重な体験となりました。

サビエル高等学校 3年 藤本 恭子 題名「進んで行く」

今回、初めてこのような全国の同年代の個性的な作品をゆっくりと観覧する機会ができて大きな刺激を受けました。たくさ



んの作品を見てインスピレーションが湧き、これからの創作活動に活かしたいと思いました。また、県代表の6人と信州の地で色々な話しをしてコミュニケーションをとれたことは平成最後の夏休みの良い思い出となりました。

3 美術・工芸専門部連絡協議会および研修会

10月9日に徳山高等学校で行いました。協議会では今後の美術・工芸の大会運営や、県総文祭美術・工芸展覧会の出品規定などについて意見交換がなされました。研修会では、全国大会の作品を一点一点スライドで、多様なレベルの高い作品を観ることで今後の指導の参考にしました。また、岩国総合高等学校美術部の活動について研究発表がありました。

各部門の報告

書道部門

理事長 河 合 和 子

(下関南高等学校教諭)

1 第40回山口県高等学校総合文化祭書道部門

11月3日(土)・4日(日)

おのだサンパーク大催事場

今年は県内19校より91点が出品され、厳正な審査により、来年の全総文佐賀大会への出品候補作品3点を含む優秀賞14点が選ばれました。臨書作品が多く、古典に向き合う中でどう個性を表現するか、とても真摯に努力を重ねた高校生らしさのうかがえるものばかりでした。生徒研修会で制作した、彩玉ボードの刻字作品も表装されて展示され、白黒の墨の世界とはまた違う趣で、会場を彩りました。2日目15時からの講評会では、審査員の先生方に講評をいただきました。緊張の中にも和やかに進められ、参加生徒は明日の部活動への意欲を感じてくれたものと思います。

今年初めての試みとして、商業施設の中の催事場での作品展でしたが、お買い物のついでや彩玉ボードのカラフルで楽しそうな雰囲気誘われた様子のご家族連れなど、嘗て無いほどの多くの方々に作品を見ていただくことが出来て、とても充実した作品展となりました。



展示会場および講評会の様子

《優秀賞～第43回全国高等学校総合文化祭 2019佐賀総文 出品候補作品》

山口県立山口高等学校	2年 藤本 彩花
山口県立下関西高等学校	2年 入江 吉乃
山口県立下関南高等学校	2年 水野 沙耶

《優秀賞》

山口県立岩国高等学校	2年 梅田 夏実
山口県立徳山高等学校	2年 浦川 恵介
山口県立防府高等学校	2年 藤村 花乃子
山口県立山口高等学校	2年 秋川 琴音
山口県立豊浦高等学校	2年 竹岡 知愛
山口県立長府高等学校	2年 久富 結衣
山口県立下関西高等学校	2年 鶴澤 周
山口県立下関南高等学校	2年 佐野 風祭
山口県立下関中等教育学校	2年 村上 彩華
下関市立下関商業高等学校	2年 長久 実句
中村女子高等学校	1年 高橋 幸音

2 第20回高文連書道部会生徒研修会

9月15日(土)・16日(日)

山口県セミナーパーク

今年度の生徒研修会は、2年ぶりに1泊2日の日程で実施することができました。台風のため、1日のみでの開催だった昨年は時間的に厳しく、練習も成果もどことなく物足りない感じが否めませんでしたが、今回は参加者も満足感を得てくれたのではと思います。

研修の内容は、1日目の午前中には1字大書の創作、午後からは県総文で展示する共同作品の制作を行いました。今回の共同作品は刻字です。半紙1/2大の亚克力ボードに揮毫した文字を刻字、彩色した作品を個人で制作し、総文祭で1つの作品として展示しました。普段は毛筆でモノクロの世界にいる書道部員ですが、彫刻刀と亚克力絵の具を駆使して、また違った個性を見せてくれました。2日目は県総文祭に出品する作品の個人練習とその講評会で、全国大会出場を目指し、熱気あふれる練習会でした。

日頃、他校の生徒と関わることの少ない書道部ですが、

研修の中で同じ志を持つ同士でありライバルでもある者の絆が生まれたように感じました。来年からもこうした研修の機会を設けたいと思っています。



研修会の様子

3 第42回全国高等学校総合文化祭(長野大会)

8月7日(火)～8月11日(土)

松本市美術館(松本市)

本年度の全国高等学校総合文化祭は、長野県にて、「信州総文祭2018」の名称で開催されました。山口県からは、県内の総合文化祭で選出された3校が、県代表として出品しました。以下に参加者の感想を付します。

第42回全国高等学校総合文化祭に参加して

山口県立山口高等学校 3年 西田 朱也子

長野県で開催された全総文祭に参加して、書道という芸術のすばらしさを改めて感じることができました。

今年の展示会場は、松本市美術館でした。美術館の前庭に展示されている、松本市出身で芸術家の草間彌生さんのカラフルな花の造形物がとても印象的でした。その格調高い美術館に展示してあることで、全国から集まった作品の魅力がより一層引き立てられており感動しました。

自分が臨書した古典と同じ古典の臨書作品はたくさんありましたが、作品構成や表現方法がそれぞれで異なりました。同じ古典でも解釈の仕方によって様々な作品に仕上がるということに面白さを感じると共に、書道という芸術の奥深さを再認識することができました。

このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。全国大会に向けて大きな作品を書く際に培った集中力や精神力を、これからの作品に、また書道以外の活動でも生かしていきたいと思っています。

山口県立宇部西高等学校 3年 松下 愛海

私は、今回の全国大会で顔真卿筆の「裴將軍詩碑」を臨書しました。私はこれまで顔真卿の古典を中心に学習し

てきました。特に「裴將軍詩碑」は最も長い期間学習した古典であり、一番思い入れのある古典でした。今回、3×8尺の紙に9文字臨書するにあたって気をつけたことは、文字の配置や粗密、太くて強い迫力のある線で表現することを意識しました。ですが、全国大会に参加して他県の作品に触れてみると、他県の作品は圧倒的に迫力があり、自分が思っていたよりも工夫が足りなかったことを実感しました。また、同じ古典を臨書していても、強調させる部分が違ったり、滲みとかすれの位置が違ったりとそれぞれに表現の方法が異なることを知り、勉強になりました。交流会で他県の書道部の人たちと話した際に、練習時間やどんな練習方法なのかを聞きました。練習時間は私たちよりも2時間多く、毎日コツコツ練習することが大切だと教えてくれました。

今回、私の念願であった全国大会に出場でき、たくさんの作品を見て勉強することができました。また、自分の力を全国大会という大きな舞台で試すことができたのは大変貴重な経験となりました。本当にありがとうございました。

山口県立下関南高等学校 3年 高橋 空

私は、「高校生になったら必ず全国高等学校総合文化祭に出場する」ことを1つの目標として頑張ってきました。出品するにあたり、何枚も何枚も自分の納得のいくまで書きました。松本市の会場では、全国の高校生のすばらしい作品を見ることができ、本当に貴重な経験でした。迫力満点の作品に魅了され、自分の未熟さを痛感しました。同じ古典の臨書でも、雰囲気が全く異なる個性豊かな作品を観覧できたことは、今後の私の書作生活を豊かにしてくれると思います。

この全総文に出場出来たのは、先生方のご指導と支えてくれた家族のおかげだと思います。日頃から書道ができる環境に感謝し、これからも精進していきたいと思っています。



信州総文祭参加者

各部門の報告

写真部門

理事長 尾崎 勝利
(防府高等学校教諭)

平成30年度の山口県高文連写真部門の活動状況について報告いたします。

1 平成30年度第42回全国高等学校総合文化祭2018信州総文祭写真部門

全国高校総文写真部門は全国展・企画展が8月7日～11日の期間に、安曇野市の豊科近代美術館で行われました。各都道府県の代表作品が展示される全国展には、全国高校生の撮影した優れた作品が数多くあり、写真の取り組みに対する意識の高さが感じられ、見応えがあります。本県からも5点の作品が出品されました。残念ながら全国展での本県作品の入賞はありませんでした。



信州総文祭に参加して

山口県立新南陽高等学校 3年 原 綾華

今回の全国総文は私にとって二度目の参加だった。一度目は一年生の時の広島である。

一年生の時は写真部に入って半年も経っていなかつ

た。私の写真は植物ばかりで人は撮っていなかったが、大会が終わってから中学時代の友人を撮った。大会で選ばれた先輩たちは、何度人に断られようとも自身のカメラで人を写すことはやめなかった。大会が終わってから私は、写したいと思った時に他人に声を掛けて、自分の写真を完成させることを目標にしている。

今回の長野で行われた全国総文は、自分の成長を確かめることができる場となった。この大会の前まで、私はそれまで独りで行ったことのない地に行き、様々な人に写真を撮らせてもらった。断られたことは何度もあったが、それでも決して諦めなかったから、今回の全国総文への出品ができたのだと思う。



そして、今回の講演会で私は新しい目標を持った。それは気に入った場所で写真を撮り続けるということである。大西先生は同じ場所で、時に少し角度を変えたり、移動したりしながら写真を撮っておられる。また、その写真は何十枚にもなる。私は同じ場所で撮る時間が短く、何度かいいタイミングがあったにもかかわらずそのチャンスを逃してしまっている。これは松本の写真を撮った時もあったことだが、「意識して撮る」と、自分のイメージに近いものが撮れた。「意識して撮る」ということを忘れないようにしたい。

それから、カメラの使い方をもう一度勉強し直したいと考えている。松本を歩いている時に撮りたいと思った人物が遠くにいた。しかし条件を合わせるができず、また、自分が撮った直後、その人はベンチから立って行ってしまった。この一瞬をうまく撮ることができなかったことで、私は自分の力が未熟であることを知ることができた。

この大会は、私にとって今の自分に気づく良い機会とな

った。写真を撮る時は「意識する」を頭に入れて、これからも撮っていきたい。

山口県立新南陽高等学校 3年 藤井 千裕

今回、信州総文2018に参加してとても印象に残っていることは、人の温かさと同じ高校生の写真に対する熱意です。

私は全国総文への出品は二回目でしたが、昨年とは雰囲気の違い、充実した時間を過ごすことができました。その中でも、他の出品者との交流会が特に充実していました。自分が出品した作品に込めた想いを話したり、得意な撮影分野や撮影をするときに心掛けていることなど、様々な話をしたりして、写真に対する強い熱意を直接感じることができました。私も同じくらいの熱意を持って作品を作りたいと思いました。

また、三日目に行われた撮影会で交流した地元の方たちとの出会いも強く印象に残っています。どの場所が撮影におすすめだとか、あの場所にはもう行ったかなどと、たくさん声を掛けてもらい、とても嬉しかったし、またとても心が温かくなりました。撮影を頼んでも断られることが多い外での撮影はとても苦手でしたが、とても親切にしてくださった方々のおかげで、前向きに取り組もうと思えるようになりました。私も自分に優しくしてくれた人たちのように、他人に優しい人でありたいと思いました。

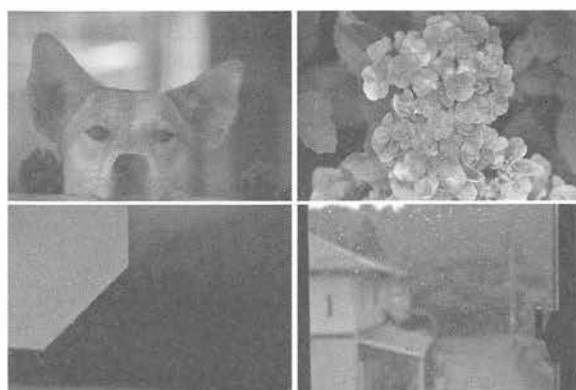


誰でも参加することができるわけではない全国総文に参加することができ、自分は本当に恵まれていると思いました。今回経験し学んだことを活かしながら、より良い作品を作っていきたいと思います。今回、信州総文に参加することができて、本当に良かったです。

山口県立下松工業高等学校 3年 柳 律輝

この度は第41回全国高等学校総合文化祭の写真部門に出場し貴重な経験をすることができました。自分自身この高校総文を1つの目標として日々の部活動に取り組んでいたので出場が決まった時はとてもうれしかったです。

交流会では、日頃交流することのできない全国の生徒がどんな写真を撮るのか、とても興味がありました。実際に同じグループの人の写真を見せてもらって、どの写真も、個性的でその写真の1つ1つにそれぞれ違う物の見方や捉え方があり、それぞれがさまざまな着眼点でシャッターを切っている印象を受けました。また各学校の活動内容や写真のテーマが違ったりいろいろなところに遠征に行って写真を撮ったりと、自分には経験がないような話がたくさん聞けてとても勉強になりました。ただキレイな写真というだけでなく写真1枚1枚に、メッセージ性があるように感じました。全体での交流では多くの人と写真を交換しその中にはその地域でしか撮れないような特徴あるものもあり、多くの写真に出会うことができました。



撮影会では、台風の影響で希望していた上高地ではなく松本市街を散策しました。松本市は国宝の松本城を中心に松本市美術館や縄手通りといったさまざまな歴史的建造物があり、1日目で学んだことを生かし歴史や文化を感じながら撮影をすることができました。特に松本城は迫力がでるようないろいろなアングルから撮影をしました。

今回の高校総文で実際に写真を鑑賞することによって今まで自分では気づくことのできなかった視点から物を捉えたり、より高い技術に触れることで、自分の感性を広げることができました。ここで学んだことをこれからの撮影に生かし、さらに技術向上できるように日頃からシャッターチャンスを狙う姿勢をもって取り組んでいきたいと思います。

山口県立下松高等学校 3年 河村 愛美

私は長野県で行われた全国高等学校総合文化祭に参加して、とても良い経験をさせていただきました。とても楽

しかったです。

まず、県内審査で自分の作品が選ばれたことがとても嬉しかったです。全国行きが決まった時からずっと楽しみにしていました。

信州は、とても自然が豊かで空気が澄んでいました。私が住んでいる山口県も自然豊かですが、それとはまた違った素晴らしさで、私は写真を撮るのに夢中でした。



作品が展示されている会場に行った時、自分以外の高校生の写真を見てとても驚きました。本当に高校生が撮ったの？と疑ってしまうくらいの迫力のある素晴らしい作品ばかりでした。色々な作品を見て、今まで自分にはなかった視点を学ぶことができました。それと同時に、自分にしかない視点から写真を撮ることができるようになりたいと強く思うようになりました。写真は同じ景色を撮っても撮る人によって表現が変わってくると思うのでとても面白いと思います。

全国からたくさん的高校生が集まって交流し、共に写真を撮ることができ、貴重な時間を過ごすことができました。

私は高校に入ってから写真を撮始めたのですが、写真に関わることができてとてもよかったと思っています。全国高等学校総合文化祭の他にもたくさんの交流を目的とした大きな大会があり、人とのコミュニケーションをとることができ、交流の輪がとても広がりました。

これから高校を卒業しても写真に携わりたいと思っています。

ありがとうございました。

山口県立下松高等学校 3年 瀬上 萌

私は信州総文を通して色々なことを経験することができました。

信州総文の3日間で1番印象的だったのは交流会です。交流会を通して交換した写真はどれも個性的で、見たことの無い角度から撮った写真ばかりでとても勉強になりました。班の中で1人ずつ自分の写真を説明した時はみんな笑顔で、その説明からとても写真に対する愛を感じて聞

いていてとても楽しかったです。写真交換のときに作ったアルバムに同じ班の子が私の写真に対して嬉しくなるような言葉を書いてくれたことは忘れられません。交流会では写真についての話はもちろん、自分の住んでいる都道府県の食文化や学校の校則についての話などでもとても盛り上がりました。こういう話で盛り上げられるのも、全国の高校生が集まる高校総文だからこそだと思います。この交流会で、写真に対するモチベーションがとても上がりました。



長野県は山口県と比べると涼しく、自然も豊かで、バスや電車の窓から見る景色全てが新鮮でした。私は普段、人を撮ることが多いですが、長野にいた間は自然を撮ることが多かったと思います。いつも撮らないような写真がたくさん撮影できて成長できた気がします。上高地でとても大きくて綺麗な蝶の写真や友達の頭に止まったとんぼの写真が撮れたのが嬉しかったです。ひたすら自然を追いかけることが楽しく、小学生の頃の気持ちを思い出しました。

信州総文に参加して、今まで知らなかったものを沢山見ることができました。運営、進行をしてくれた長野県の高中生、準備などを全てくださった顧問の先生、日々支えてくれる両親、互いに切磋琢磨して写真を頑張る部員達には感謝しかありません。信州総文、とても楽しかったです。

2 第40回山口県高等学校総合文化祭展示部門

11月9(金)～11日(日)周南市の新南陽ふれあいセンターにおいて県総文展示部門の作品展示が行われました。今年度はこれまでで最多の出品点数となる15校188点の作品の応募がありました。写真部があっても作品提出のない学校があったのは残念ですが、始めて応募された学校や、写真部や美術部に所属していない生徒の作品応募がありました。写真部の数や部員の減少により、各校の年ごとの部員数の増減により出品数が左右される現状です。部員数や出品数は他県と比較してかなり少ない状況であり、今後の部員数の増加や活動の活性化に課題を残

しています。今後は写真部・美術部の垣根を超えた写真の啓発により、写真部会の活性化ができればと考えています。また例年、審査員としてプロカメラマンである(社)日本写真家協会会員のタカオカ邦彦氏を迎え、プロによる評価・講評を続けています。今年度は審査の結果19点が優秀賞に選ばれ、そのうち5点が来年の全国高校総文佐賀大会への出品候補作品となりました。最終日の講評会ではタカオカ氏からのていねいな講評があり、参加された生徒・顧問の皆さんも学ぶことが多かったのではないかと思います。

準備・運営に携わってくださった役員の先生方、また補助員の生徒の皆さんに感謝いたします。

3 写真研修会・提出作品の講評会

展示部門の会期最終日に新南陽ふれあいセンターに於いて、タカオカ邦彦氏による写真研修会があり、例年と同様50名あまりの参加がありました。午前中は県総文祭作品の講評会の後、参加生徒が提出した作品を講評する研修会を行いました。作品をスクリーンに投影し、作品に対する本人の説明の後、生徒たちが講師からの講評・アドバイスを受けるという対話重視の研修を体験しました。

また、2月には生徒・顧問から提出された作品に対して、

タカオカ氏による作品講評がなされる、という形での研修会を行います。

今後も同様な形で研修会を開催し、写真部員の技術向上に役立てたいと考えています。



4 その他の活動

第25回全国高等学校写真選手権大会(写真甲子園2018)の本戦出場校を決める中国ブロック決勝5校に、下松高等学校と新南陽高校が進出し、5校中2校を山口県の高校が占め、山口県の高校生の写真レベルの高さを感じさせました。審査の結果、本戦出場は果たせませんでした。また、TopEye 全国高校生写真サミット2019に下松高校が出場しました。

第40回山口県高等学校総合文化祭 写真部門受賞者一覧

(主催:山口県高等学校文化連盟 山口県 山口県教育委員会 後援:周南市教育委員会)

平成30年11月9～11日 新南陽ふれあいセンター

優秀賞(全国高等学校総合文化祭出品候補作品)

学校名	氏名	学年	題名
光丘高等学校	壹岐 百香	2	虚無
下松高等学校	池田 雪乃	2	Falling drop
下松工業高等学校	山崎 大樹	1	僕だけの場所
防府高等学校	多賀 莉乃	2	好敵手
	水津 桜咲	1	ひとりの時間

優秀賞

学校名	氏名	学年	題名
下松高等学校	秋山 遥香	1	つよくなりたい
	山野 瑞月	1	柔らかな温度
	原田 采奈	1	ころん
	西井 愛咲	1	無光
下松工業高等学校	浅田 陸斗	3	一時のやすらぎ
熊毛北高等学校	鬼束 ひかる	2	アイス
新南陽高等学校	増濱 遥	2	毎朝の日課
	山田 純加	2	咲き乱れる車内
防府高等学校	松田 美侑	2	私たちの闘い
	石川 美波	2	帰り道
	吉村 法香	2	放課後の住人
	松本 月碧	1	物憂げ
	吉本 芽生	1	明日から。
	磯辺 樹	1	曇天に住まう

放送部門

理事長 馬 木 明 美

(下松高等学校教諭)

1 第42回全国高等学校総合文化祭(2018信州総文)は、8月9日と10日、カノラホールで行われました。会場を宇宙船に見立て、入り組んだ施設の不便さも視点を変えて楽しむ工夫をするなど、すべてにおいて前向きな取り組みが印象に残る大会でした。

山口県勢は、番組部門において、光高校の、地元のお祭りを扱ったビデオメッセージ部門の『若いしー、頼みじゃー』が、光海軍工廠の学徒動員の女生徒の思いをとりあげたオーディオピクチャー部門の『乙女の祈り』が、優秀賞を受賞しました。また、今回特設部門であるCM部門において、山口県チームが、「原村村長賞」と、部門最高賞である「なび助賞」を受賞しました。山口県チームは、昨年度の県総文でCM部門に参加した岩国高校・徳山高校・下松高校から選抜された合同チームです。CM部門は、各県に割り当てられた宮城県内の地域をPRするビデオを、地元の方々に事前に取材を行い、必ず現地で撮影した映像を10秒以上取り入れて30秒のPR動画を作るというものでした。これまでにない新しい取り組みで大変さもありましたが、充実した濃密な時間でした。



長野県原村でCM撮影中の山口県チーム

第42回全国高等学校総合文化祭(2018信州総文)放送部門に参加して
岩国高等学校放送部

3年 林田 一吹

CM部門、山口県合同チーム、現地編集…。

この長野県大会は僕にとって、すべてが「初」となる経験ばかりの夏となりました。大会前は、色々なことが楽しみであると同時に、他校との制作ということもあり、うまくいくのかという不安もありました。

僕たち、山口県のcmのテーマは「セロリ」でした。これを聞いたとき、正直あまり僕たちにとって馴染みの少ない食材ということもあり、脚本についての話し合いは盛り上がりながらもかなり時間がかかり、大変でした。

現地での撮影当日は、セロリのフレッシュさをアピールするために、収穫の始まる午前4時半から撮影準備を始めました。長野高原の澄んだ空気に目を覚まされながら進めた撮影は、カメラに写るものすべてが新鮮で、はじめての経験ばかりのものに感動しました。特に、目の前で収穫したセロリに生でかじりついた時の、口の中ではじけるようなみずみずしさやパキッと音が出るほどの歯ごたえ、舌に残るほろ苦さを感じた面白さは朝早くから来た甲斐があったなど感じました。

その後の長い編集は、時間との勝負でした。セロリの新鮮さを伝えるために、音にこだわったり、さらには撮り直しがあつたりと、慣れない現地編集に苦労しました。

そして、大会当日。他県の作品を見て、正直、レベルの高いものが多く、発想や編集技術に驚かされました。

結果発表の時、正直僕は「もしかしたら」程度に受賞を期待していました。その瞬間にナビ助賞の受賞を聞き、嬉しさや感動より先に驚きを隠せませんでした。それでも、隣の生徒と顔を数秒見合わせた後、喜びをかみしめました。

一生に一度しかないチームで受賞できたことは、とても嬉しく、誇りに思います。さらに、最初不安に思っていた「他校とのチーム」のメンバーとも、すぐに打ち解け、先輩後輩関係なく皆和気あいあいとした雰囲気で作る事ができました。貴重な思い出と一緒に作ってくれた今回のメンバーに感謝したいです。

三年の集大成を気持ちよく飾れた最高の夏でした。



表彰を受ける林田くん

2 第40回山口県高等学校総合文化祭第25回放送部大会は11月10日、山口市のニューメディアプラザで行われました。参加人数は、朗読部門32人、アナウンス部門32人、オーディオピクチャー部門3校3作品、ビデオメッセージ部門6校6作品となりました。中国大会を3回経験し、開催県として運営も行った経験は大きく、読み、作品共にレベルアップしました。

この大会で入賞した生徒と番組は、7月に行われるさが総文と2月に島根県出雲市で行われる中国大会に出場することになります。

生徒の相互評価によるコメント交換も定着し、大会の中で競い合うライバルであると同時に、率直な意見を交わし高め合う仲間としての関係作りも軌道に乗ってきました。入賞者は以下の通りです。

【朗読部門】

最優秀 児玉 瑞歩(山口高校2年)

優秀 大谷 紗矢(山口高校2年)

〃 門脇 帆花(熊毛南高校2年)

以上3名 全国大会出場

入選 山本 千尋(下松高校2年)

〃 高橋 未徳(光高校2年)

〃 野口 涼香(下関西高校2年)

〃 相場 遥香(下関西高校2年)

〃 板垣 美砂(山口高校1年)

〃 重元 幸平(高水高校2年)

〃 桑嶋 里空(華陵高校2年)

以上10名 中国大会出場

【アナウンス部門】

最優秀 橋本 有佳子(下関西高校2年)

優秀 植木 あすか(徳山高校2年)

〃 能美 千愛(山口高校2年)

以上3名 全国大会出場

入賞 菅 里帆(山口高校1年)

〃 廣田 満帆(熊毛南高校1年)

〃 蛸崎 侑希(下松高校2年)

〃 西村 萌伽(光高校2年)

〃 井東 麗(山口高校1年)

〃 前田 有咲名(高水高校2年)

〃 志谷 萌花(岩国高校2年)

以上10名 中国大会出場

【ビデオメッセージ部門】

最優秀 「海を渡る男たち」(下松高校)

優秀 「大道理マンガ村」(徳山高校)

以上2作品 全国大会出場

入選 「好きのカタチ」(山口高校)

〃 「熊毛王国!!!」(熊毛南高校)

〃 「愛 Kyo」(岩国高校)

以上5作品 中国大会出場

【オーディオピクチャー部門】

最優秀 「水でつながる町」(下松高校) 全国大会出場

入選 「イメージを越えて」(山口高校)

〃 「海がつなぐ 130年7000キロ」(岩国高校)

以上3作品 中国大会出場



3 アナウンス・朗読研修会は、徳山高校を会場に放送インストラクターの安田知博先生を招いて2度実施しました。7月に計画していた第1回は豪雨のため中止となり、9月23日に実施しました。1年生を対象にした基礎・基本練習の実習、生徒から日頃の練習の悩みを講師の先生へ率直な質問をぶつける質問コーナーもあり、大きな盛り上がりを見せました。今年度全国大会で活躍した3年生からの大会報告も行われました。第2回は11月18日に、中国大会の強化練習を中心に行いました。

また、3月23日から1泊2日で、光市のスポーツ交流村にて、次年度へ向けて強化合宿を行う予定です。

各部門の報告

囲碁部門

理事長 高 野 朝 男

(下関西高等学校教諭)

〈平成30年度の主な活動報告〉

1 囲碁研修大会

期日:7月8日(日)

場所:下関西高等学校

指導:日本棋院プロ棋士 五段 山本賢太郎



(研修大会・指導碁風景)

《出場者と成績》

〈団体戦〉

佐藤 弘教・古道 大介・山下 りさ(徳 山) 3勝3敗17位

〈個人戦〉

男子 庄司 一晟(高 森) 2勝4敗34位

女子 藤井 桜(徳山商工) 1勝5敗41位



(全国総文・対局風景)

2 第42回全国高等学校総合文化祭囲碁部門

期日:8月7日(火)・8日(水)

場所:長野県大町市「黒部観光ホテル」

第42回全国高等学校総合文化祭囲碁部門大会は、8月7日(火)・8日(水)に長野県大町市で開催されました。黒部観光ホテルを会場に、2日間で各参加者は6局を打ち、盤上の熱い戦いを繰り広げました。

大会は、団体戦(男女混成3名の各県代表チーム)と男女個人戦(各1名の各県代表)で行われました。山口県チームは、前年10月の県総文祭の上位入賞者が代表となって出場しました。大会での順位付けは、団体戦・個人戦ともに、勝者同士・敗者同士を対局させて、2日間で6局の各対局相手の勝敗も加味して順位を決めるスイス方式で行われました。参加した代表生徒はそれぞれに力を出し切りました。また、「ホテルで相部屋になった他県の高校生といろいろな話しができたことがとても楽しかった。」と感想を述べる参加生徒がいるなど、全国の高校生との交流も存分に楽しんでいました。

第42回全国高等学校総合文化祭「2018信州総文祭」囲碁部門に参加して

山口県立高森高等学校 2年 庄司一晟

今回の囲碁大会で得られたものは2つありました。

1つは経験値。全国から集まった猛者達に立ち向かい、実力を肌で感じる事が出来ました。結果としては2勝4敗と不甲斐ない成績で終えることになりましたが山口県代表として一矢報いることが出来てよかったと思っています。

2つ目は人間関係・コミュニケーションです。徳山をはじめ、慶應、秋田など有名校の方々と世間話や囲碁についての話をたくさんし、相部屋になった高校の人達と素数大富豪や大富豪をして対局以外の交流も楽しみました。加えて、私事ではありますが大会初日の8月7日は誕生日だったので、相部屋の人に祝ってもらいました。なかなかない体験をさせてくれました。小部屋にはない、みんなで交流することで常に緊張感を持ち3日間の全ての時間を楽しく有意義に過ごすことが出来ました。

残念ながら、これから山口県のアマチュア囲碁界は確実な人口減少化にあります。私は、少しでもこれに関与し

て盛り上げたい、その為にも実力をつけて囲碁の認知度を高めていきたいと強く思いました。



山口県立徳山商工高校 3年 藤井桜

総文祭2日目、5局目が始まる直前の待機時間、私は気分が非常に落ち込んでいました。それまでの4局とも白星をあげることができなかったのです。なぜ勝てないのか、あんなに練習したのに。いや、もっとたくさん打っておくべきだったと自身を責め、後悔していました。そのとき、私の斜め前に座っていた1学年下の2年生の選手の子が話しかけてきました。「お疲れですか？」と。その子は私とは対照的に晴れやかな顔をしていて、周りのいろいろな人に話しかけていたのです。その子もそれまで全敗だったというのに。私も、囲碁を覚えたての頃は碁を打つのが楽しくて仕方ありませんでした。勝つことも負けることも、それらが全て面白いと思っていたのです。確かに、この全国大会では、勝つことが重要なことかもしれません。この場にいる選手全員がこの日のために多くの時間を費やし、努力を重ねてきたのでしょう。結果はどうあれ、そうした思いを同じくする人たちと技を競い、時間を共有できている素晴らしさに気づけたことが大きな収穫となりました。



3 第40回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門

期日：10月28日(日)

場所：下関西高等学校

第40回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門第30回大会を、10月28日(日)に下関西高校で開催しました。参加校は10校で、49名の生徒が参加しました。この大会は、全国大会代表と中国大会代表を決める代表決定戦と段級位認定戦とに分かれて行いました。

代表決定戦には男子22名、女子10名、段級位認定戦には17名の生徒が参加しました。この認定戦には3年生の参加も認めており、高校最後の大会で目指す段級位を取得しようと例年何人かの3年生が参加しています。生徒にとっては段級位を認定してもらうことが大きな励みになっています。代表決定戦も段級位認定戦も、スイス方式で今年は5回の対局を行いました。代表決定戦の男子上位3名と女子上位2名は、来年度佐賀県鹿島市で開催される全国高等学校総合文化祭に出場することになります。全国大会には、男女混成3名で山口県チームを組む団体戦と男女各1名の個人戦に出場します。中国大会には、団体戦に団体優勝の高校が、個人戦に上位の男子6名と女子3名が出場します。

《大会結果》

《団体戦》

男子	優勝	山口県立山口高等学校
女子	優勝	山口県立徳山商工高等学校

《個人戦》

男子	優勝	長尾 龍之介	(山 口)
	2 位	古道 大介	(徳 山)
	3 位	山田 健人	(山 口)
女子	優勝	諸井 花音	(下 関 西)
	2 位	青木 寧音	(徳 山)
	3 位	稲 亜樹佳	(徳 山)





(県総文・対局風景)

4 第22回中国高等学校囲碁選手権大会

期日:12月25日(火)・26日(水)

場所:広島県広島市「東区民文化センター」

中国大会には、男子団体戦に山口高校、女子団体戦に徳山商工高校、男子個人戦に県予選の上位6名、女子

個人戦に上位3名の選手が出場しました。男子団体戦は優勝し、男子個人戦は最高順位で2位、女子個人戦は最高で3位と健闘し、3月に大阪府で行われる全国選抜大会への出場権をそれぞれ獲得しました。

《出場者と成績》

〈団体戦〉

男子	山口高等学校	4勝0敗 1位
女子	徳山商工高等学校	0勝3敗 4位

〈個人戦〉

男子	古道 大介 (徳山)	4勝1敗 2位
	沖田 琉唯 (柳井商工)	3勝2敗10位
	中村 海斗 (山口)	3勝2敗13位
	石田 悠真 (徳山)	2勝3敗16位
	田中 智大 (山口)	2勝3敗18位
	関谷 佳樹 (山口)	2勝3敗21位
女子	青木 寧音 (徳山)	4勝1敗 3位
	諸井 花音 (下関西)	3勝2敗 4位
	稲 亜樹佳 (徳山)	2勝3敗 7位



(中国大会・対局風景)

各部門の報告

将棋部門

理事長 弘 中 敏 之

(徳山高等学校教諭)

近年、プロアマ問わず将棋界は大きな盛り上がりを見せています。山口県もまた、その流れに乗り、アマチュア大会での全国優勝が続いています。高校では、第42回全国高等学校総合文化祭において、女子団体が4年連続で入賞しました。さらに、昨年の第17回中国地区高等学校将棋選手権大会において、県勢初となる男子個人優勝を果たしています。県内での大会も、各方面の方々の温かいご協力の下、参加者が急増し、裾野の広がりをかせています。当部門も、高校生の皆さんの豊かな人間性と友情を育む一助となるように努めています。

1 第40回山口県高校総合文化祭将棋部門

平成30年5月26日(土)・27日(日)

防府市文化福祉会館

男子団体 参加9校32チーム

- 第1位 徳山高校A (大中 智哉・梶山 智史・小林 宗生)
- 第2位 下関西高校A (長田 周也・木田 清太・小倉 雅博)
- 第3位 下松高校C (寺尾 佳祐・高田 晴斗・田中 瞭宇)
- 防府商工高校A (桑田 廣幸・横尾 陸・甲斐 紀成)

女子団体 参加1校2チーム

- 第1位 徳山高校A (高瀬 夏生・山中恵里香・梶原みうな)
- 第2位 徳山高校B (稲 亜樹佳・西村奈々英・飯干 智美)

男子個人 参加12校112名

- 第1位 小倉 雅博 (下関西1)
- 第2位 眞野 寛人 (宇部フ香川3)
- 第3位 上田 怜生 (下松2)
- 浜崎 光司 (下松2)
- 敢闘賞 寺尾 佳祐 (下松2)
- 福田 涼介 (下松2)
- 御園生建太 (防府商工2)

女子個人 参加3校9名

- 第1位 須濱明日未 (下松2)
- 第2位 上田真由香 (防府1)
- 第3位 稲 亜樹佳 (徳山1)



2 第42回全国高校総合文化祭将棋部門

平成30年8月9日(木)・10日(金)

長野県千曲市上山田文化会館～圓山荘

男子団体 徳山高校 (大中 智哉・梶山 智史・小林 宗生)
予選リーグ2勝2敗 26位

女子団体 徳山高校 (高瀬 夏生・山中恵里香・梶原みうな)
予選リーグ3勝1敗 10位で通過
決勝トーナメント準々決勝進出 5位入賞



男子個人

小倉 雅博(下関西1) 予選リーグ2勝2敗
眞野 寛人(宇部フ香川3) 予選リーグ1勝3敗

女子個人

須濱明日未(下松2) 予選リーグ2勝2敗
上田真由香(防府1) 予選リーグ1勝3敗

第42回全国高等学校総合文化祭「2018信州総文祭」囲碁部門に参加して

山口県立徳山高等学校 1年 大中 智哉

8月8日から、第42回全国高等学校総合文化祭将棋部門男子団体戦に先輩2人と山口県代表として出場しました。大会当日は晴れ、会場のホテル圓山荘には全国からさまざまな制服に身を包んだ生徒が集まり、まさに祭典という雰囲気です。

この大会は僕にとって高校生活初めての全国大会で、自分の実力がどれほど通用するのかが率直な楽しみでした。実際は2泊3日の参加者同宿ということもあって、見知らぬ他校生徒と情報交換できる機会が多く、大会の枠を超えて3日間丸ごとが文化祭だったように思います。「文化は学習することで伝習され、交流することで発展する。」と聞いたことがあります、それを凝縮したものが高校総文なのかもしれません。

さて、僕たちの徳山高校の結果ですが、2勝2敗で予選通過できませんでした。しかし、僕自身の成績は全勝で、大将としての役割は果たせたと思います。今は、気持ち新たに全国の舞台を思い描きながら、まずは山口県予選突破を目指して、日々将棋に取り組んでいこうと思っています。

3 山口県高文連将棋専門部研修会(第23回山口県高等学校将棋新人大会)

平成30年11月4日(日)

防府市文化福祉会館



男子個人 参加12校83名

- 第1位 大中 智哉 (徳山2)
- 第2位 浜崎 光司 (下松2)
- 第3位 中本 樹希 (防府2)
- 村谷 智毅 (桜ヶ丘2)
- 第5位 佐藤 陽樹 (岩国1)
- 福田 智章 (徳山1)

女子個人 参加3校6名

- 第1位 須瀨明日未 (下松2)
- 第2位 稲 亜樹佳 (徳山1)
- 第3位 上田真由香 (防府1)

敢闘賞 上田 怜生 (下松2)

河田 智也 (下関工科2)

田村 建太 (長門1)

有田 伊吹 (宇部高専1)

研修会(指導対局、大盤解説)

指導 北村 公一 日本将棋連盟山口支部長

松本 誠 全国シニア名人

4 第17回中国地区高校将棋選手権大会(鳥取大会)

平成30年12月15日(土)・16日(日)

鳥取県米子市 米子市公会堂

男子個人 参加32名

- 大中 智哉 (徳山1) 5勝0敗 優勝(山口県初)
- 佐藤 陽樹 (岩国1) 4勝1敗 3位入賞
- 浜崎 光司 (下松2) 2勝3敗
- 村谷 智毅 (桜ヶ丘2) 2勝3敗
- 福田 智章 (徳山1) 1勝4敗
- 中本 樹希 (防府2) 0勝5敗

女子個人 参加16名

- 須瀨明日未 (下松2) 3勝1敗 2位入賞
- 稲 亜樹佳 (徳山1) 2勝2敗
- 上田真由香 (防府1) 1勝3敗

5 第26回全国高文連将棋新人大会

平成30年1月26日(金)～1月27日(土)

静岡県浜松市中区東伊場1-3-1

グランドホテル浜松

男子個人

- 中島 秀幸 (慶進2) 予選リーグ2勝2敗
- 眞野 寛人 (宇部フ百川2) 予選リーグ1勝3敗

女子個人

- 須瀨明日未 (下松2) 予選リーグ4勝1敗
- 決勝トーナメント 9位
- 高瀬 夏生 (徳山2) 予選リーグ2勝3敗
- 梶原みうな (徳山2) 予選リーグ2勝3敗

各部門の報告

小倉百人一首かるた部門

理事長 青 池 のぞみ
(小野田高等学校教諭)

1 部門の活動報告

小倉百人一首かるた部門が発足して6年が経ちました。様々な方々から御指導をいただき、少しずつ組織として前進しています。

平成30年度には、競技かるた部や同好会として活動している学校が、県内で5校に増え、切磋琢磨しています。

かるた競技は、「畳の上の格闘技」といわれています。静寂と美しい日本語の調べのなかで自己と向き合う高度な集中力と記憶力、相手に勝る瞬発力、そして常に冷静な判断力、長時間の対戦に耐え得る精神力や体力が求められる厳しい競技です。また、美しい振る舞いや相手を敬う人間性も必要です。山口県では、かるた協会と協力しながら選手育成をおこなっています。合同練習会や錬成会を実施し、各種大会でも好成績を収めています。

かるたに向き合って集中し、日々厳しい稽古に取り組んでいる生徒の顔は、とても熱く輝いています。山口県から、未来の名人・クイーンが育つことを期待しています。

2 第40回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

滋賀県大津市の近江神宮で毎年開催される、「かるたの甲子園」と呼ばれる伝統と名誉ある大会です。今年は7月27日(金)～30日(日)に開催されました。

団体戦 山口県立小野田高等学校 1回戦出場

個人戦 C級第4位 山口県立長府高等学校3年 西田井つばさ

山口県立小野田高等学校2年 伊藤彩名

個人戦 D級第4位 慶進高等学校2年 時吉知春



3 第42回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門

8月9日(木)～11日(土)の3日間、長野県長野市のホワイトリンクにおいて開催されました。山口県は4校合同8名での出場となりました。

団体戦 山口県チーム 予選リーグ第4位

山口県立小野田高等学校 3年 武下茜

3年 村井乃枝

3年 名和田朱里

2年 伊藤綾那

2年 大島舞衣

山口県立宇部高等学校 2年 吉村和

山口県立長府高等学校 3年 西田井つばさ

山口県立豊北高等学校 3年 石田彩夏

第42回全国高等学校総合文化祭に参加して

山口県立小野田高等学校 3年 武下茜

山口県代表として恥ずかしくない態度、また3年間の集大成として悔いのないよう、全力で頑張ろうという思いで臨みました。私は2試合出場して、2試合目は負けで終わってしまいましたが、格上の相手と思い切りかるたを取ることができ、気持ちよく終わることができたので良かったです。

結果だけ見ると、良い結果とは言えませんが、負けたことで気づけたこともあります。この負けが後輩たちに繋がって、山口県チームはさらに強くなると思いました。

総文は2度目の出場で、2度も山口県の代表選抜メンバー入りできたことを誇りに思います。また、今まで御指導してくださった先生方、応援し支えてくれた家族など、かるたに関わる全ての方々に感謝の思いでいっぱいです。3年間きちんとやり遂げることができたので、もう悔いはないです。

かるたに出会えて本当に良かったし、これから先もずっと続けていこうと思います。

山口県立小野田高等学校 3年 村井乃枝

今回の総合文化祭は、私の高校生活最後の大会という思いで臨んできました。高校に入学してからかるたを初めて、山口県代表として全国大会に出場することができると

は想像していませんでした。これは、多くの先生方、先輩や仲間達、応援して下さる方々の支えがあったからです。

私は、「人間性を磨くこと」を信条としてかたるを続けてきました。勝った時だけでなく、負けた時でも人として恥ずかしくない行動をとり、かたるを通して人として成長することを青池先生から教わったからです。しかし今回は、焦りや混乱など、集大成となるべき大会で動揺の連続でした。そんな中、仲間からたくさん励まされ、最後の一枚まで諦めることなく、試合に挑むことができました。

結果としては悔しい内容でしたが、やり切った達成感があります。かたるを続けられたことを誇りに思い、次に繋げたいと考えます。

山口県立小野田高等学校 3年 名和田朱里

今回、信州総文祭に参加して、全国の高校生かたるの盛り上がり、みんなのかたるに対する熱意を改めて感じました。札を取るときの勢いやかけ声から伝わってくるみんなの勝ちたいという気持ちに、自分も負けてはいられないと思いました。

普段、他県の団体戦を見る機会はなかなかないですが、今回の大会では多くの県のプレーを見ることができ、とても勉強になりました。

また、県内の他校の選手と団体戦を一緒にすることができたのも良い経験になりました。

今回、総文祭に参加できて本当にうれしかったです。企画や準備などをして下さった長野の方々、ありがとうございました。

山口県立小野田高等学校 2年 伊藤綾那

私は今年初めて全国総文に出場しました。去年の予選会の時は、先輩方の試合を見るだけでした。その時「来年は、絶対にメンバーに入る」と心に決め、1年間頑張ってきました。そして副将として出場できたので、とてもうれしかったです。

本番では大きい会場や強豪選手と当たったことへの緊張から、思うような試合ができず、大敗して足を引っ張ってしまいました。自分が劣勢の時には、チームに声かけもできず、とても悔しい思いをしました。今後もっと実力をつけ、来年は主将としてチームに貢献できるようになりたいです。そして予選を突破して、決勝トーナメントに進出したいです。

最後に、会場の準備や当日の運営をしてくださった長野県のスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

山口県立小野田高等学校 2年 大島舞衣

今回が初めての全国総文で、すごく緊張しました。1試合目の広島県の相手選手は、一字決まりの札がとても速く、ほとんど取られてしまい悔しかったです。一字決まりの札が自陣も相手陣も取れるようにもっと練習をしようと思いました。かけ声がありできなかったのも、気を付けようと思いました。2試合目の北海道戦は、お手つきをしてしまったので、もっと集中して、最後の一枚までしっかり攻めて勝つように練習をしようと思いました。私は後半が苦手なので、集中が続くような体力をつけたいです。

課題を克服して、来年の全国総文に出場できたら、チームの力になれるようにがんばりたいです。

山口県立宇部高等学校 2年 吉村和

今回が私の初めての高校総文でした。県予選では不甲斐ない試合をしてしまったので、全国総文では頑張ろうと心に決めていました。遠い信州の地で、更に長野オリンピックの会場だったと知ってから、益々その気持ちが強くなりました。

初戦の広島戦を4対1で負けてしまい、決勝トーナメントへの道は速くなりました。しかし、チームのみんなは北海道戦では切り換えて見事勝利してくれました。鍵となる神奈川戦に出させてもらいました。格上の選手との対戦に緊張を隠せず、序盤で大差がついてしまいました。しかし、チームメイトが何度も声をかけてくれたので、粘ろうという気持ちが生まれました。私は団体戦の経験が浅くてチームに貢献できませんでしたが、他の人から力をたくさんもらいました。他の学校で普段は活動している8人でしたが、かたるを通して良い関係を築きました。来年も県予選を突破して、佐賀総文に出場したいです。

山口県立長府高等学校 3年 西田井つばさ

今回参加した信州総文は私にとって高校生活最後の団体戦でした。私は1年生から参加していますが、決勝トーナメントに進出したことがなく、今年こそはと強く思うものがありました。

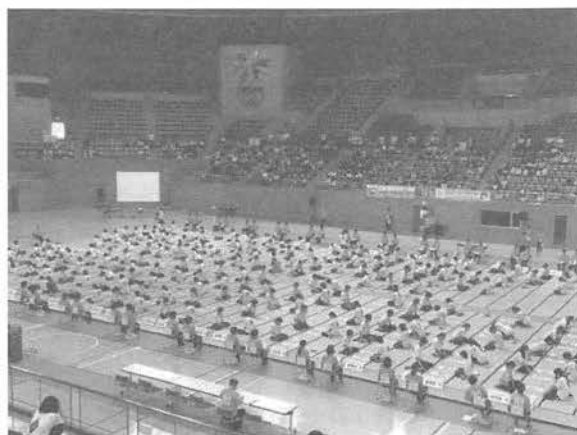
予選リーグ1回戦は緊張のせいか体が動かず普段通りの取りができず1-4で負け。2回戦は3-2で勝つことができました。3回戦は、格上の相手だと意識してしまったせいか、序盤から3連続お手つき。その後お手つきのお陰か力が抜け普段通りの取りができましたが、力及ばず0-5で負け。もし、最初のお手つきがなければと少し後悔の残る試合となりました。残念ながら今年も決勝トーナメントには行

けませんでした、人として成長することのできた大会でした。

運営に携わってくださった長野県の皆様、ありがとうございました。

山口県立豊北高等学校 3年 石田彩夏

今回、2年連続全国総文に出場させていただき、とても良い経験をする事ができました。私個人としては、自分の思うような結果を残すことができず、チームの目標であった決勝トーナメント進出にも貢献できませんでした。しかし、チームの皆の力のおかげで、昨年勝つことができなかった北海道に3-2で勝てたことは、自分がその一勝に絡めなかったとしても、本当に嬉しく思いました。今年のチームは昨年よりも選手の層が厚くなり、昨年同じチームで出場した仲間も着実に強くなっていただけに、決勝トーナメントへ駒を進められなかったことは非常に残念で、今でも悔しさが残っています。しかし、総文に出場し、多くを学び、経験することで、先生方が言われたように人間性を鍛えることができたと思います。今年で全国総文に出る機会はいよいよ最後でしたが、これからも山口県に貢献できるように努力したいと思います。今回応援して下さった方々、本当にありがとうございました。



4 第21回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会

11月10日(土)～11日(日)に、島根県益田市の島根県立益田高等学校柔剣道場で開催されました。昨年の中国大会の成績から山口県には2チームの出場枠が与えられました。

団体戦 山口県立小野田高等学校 第4位

山口県立長府高等学校 予選リーグ第4位



各部門の報告

文芸部門

理事長 河 井 昌 枝

(西京高等学校教諭)

今年度の文芸専門部の活動を日程順に報告します。

1 山口県高等学校総合文化祭開会式慶祝展示

昨年度の各文芸コンクールの優秀作品、各校の文芸作品集、活動の一端を紹介する写真パネルを展示しました。俳句、短歌、詩は皆さんにじっくり見ていただけるように短冊にしました。

2 山口県高等学校総合文化祭(県文芸コンクール)

今年のコンクールには散文39作品、詩27作品、短歌8作品、俳句47作品の計121の応募があり、それぞれ最優秀、優秀、優良、入選を選出し、上位コンクールに推薦しました。

【散文】

学校名	題名	学年	氏名	授賞
防府	本の蟲	2	中島 瑞季	最優秀
山口	嗜虐	3	片山 沙耶	優秀
下松	レンズ越しの貴方	2	田村 綾子	優秀
下関西	曇りのち晴れ	2	毛家村 望	優良
下松	貧血少女	1	村田 英生	優良
下松	少年の風	2	松浦 芽依	優良
光丘	I pray to God	2	松原 瑞季	入選
熊毛南	錯覚	3	豊田 晃臣	入選
山口	色彩図	1	横山なづな	入選
防府	失信念	2	後藤 壮作	入選
防府西	星の願望	2	藤田 朔実	入選
宇部	前略	3	松井 裕規	入選

【詩】

学校名	題名	学年	氏名	授賞
柳商工	明日のあんぱん	3	市原 歩海	最優秀
柳商工	突然の雨	1	久保麻千香	優秀
西京	あたりまでなんだう	1	恒富 あい	優秀
柳商工	今日がある	3	貞安 優音	優良
萩	雨とわたし	1	楠本 美羽	優良
柳商工	旧型版の崩壊	3	児島明日香	入選
下関西	君の夢	1	磯部ななみ	入選
柳商工	明日	1	浴本 拓哉	入選

【短歌】

学校名	題名	学年	氏名	授賞
徳山	幸せの	3	西村 陽菜	最優秀
野田	インディゴ	2	堀江みなみ	優秀
徳山	カレンダー	1	清水 瞳美	優良
柳商工	宿題に	3	西川 瑠斗	入選

【俳句】

学校名	題名	学年	氏名	授賞
徳山	春眠の	3	西村 陽菜	最優秀
徳山	タンカーの	3	沖 大貴	優秀
熊南	魔駅を	3	豊田 晃臣	優秀

熊南	朝の声	3	川野愛里紗	優秀
高森	蜜豆を	2	藤田 桃香	優良
山口中央	虹の梁	1	田中 皐月	優良
高森	ぼつぼつと	1	末廣 千鶴	優良
西京	俳句 3句	2	鳥本 侑希	優良
山口中央	零垂る	3	山縣 知世	入選
徳山	春燈に	2	浅原 佑斗	入選
柳井商工	一ミリの	3	水野 晴菜	入選
徳山	遠蛙	3	大橋 恵	入選
熊南	ふいに持つ	2	浴田 寧音	入選
山口中央	ベランダで	2	高木 玲奈	入選

3 全国総合文化祭(2018信州総文祭)

8月7日から10日にかけて長野県佐久市で開催された信州総文祭に山口県を代表して5名が参加しました。大会テーマは「みすずかる信濃に若木は競い、森を深める 山脈(やま)渡る風に種子(たね)を拡げて」でした。～みすずかる(「信濃の枕詞」)信濃の国で人々は自然とともに息づき、幾重にも重なる山並みによって分かれた盆地や谷ごとに、個性豊かな文化を脈々と創り上げてきました。今日は未来を担う高校生が信州に集い、文化を継承し、新たなものをいっしょになって発見しましょう～といった意味が込められているとのことで、このテーマのもつ、透き通るような凛とした美しい信濃で、来年につながるすばらしい研修を受けることができました。



全国総合文化祭(2018信州総文祭)参加報告

散文部門 徳山高等学校 3年 大橋 恵

私はこの信州総合文化祭に一日目から参加しました。以下、その報告を記します。

一日目、散文部門では東信(信州の東側)を中心に文豪

ゆかりの地を見て回りました。

最初の堀辰雄記念館では堀辰雄が晩年住んでいた家やその奥方の作られた記念館、展示室などを見て回りました。展示室では堀辰雄にあてた芥川龍之介の手紙や奥方とのやり取りなどが展示されていました。また堀辰雄が作らせた書庫なども見ることができました。

また近くには如意輪観音の半跏思惟像があり、それは左手を頬にあてていることから歯痛観音と呼ばれ堀辰雄もよく参拝したということでした。また中山道の宿、分去宿のあった場所を見に行きました。古い道祖神のある分かれ道でした。

次に行った郷土館ではその地の多くの調度品や浅間山から降って来たという200kgほどの岩石を見ました。他県の民族性に触れることはなかなかないので、楽しかったです。

芭蕉碑は巨岩で、苔なども生えていました。句の書かれた側の石表面は綺麗でしたが、句を判読するのは困難でした。傍の解説によると、「吹き飛ばす石も浅間の野分かな」と記されていたようです。

虚子記念館では虚子の声を聴きました。テープが何分昔のもので、聞き取りにくいところもありましたが芯のある伸びやかな声でした。それ以外にも虚子直筆の色紙や多くの句を見ることができました。

懐古園では藤村の小諸の地での生活や心境についてのお話を聞き、様々な展示品を見ました。特に藤村の時系列順に並べられた何枚かの顔写真は藤村の心境の変化を感じさせました。

最後に中込中学校へ行きました。太鼓楼を見ることはできませんでしたが、古いオルガンを弾いたり、昔の子供たちの習字の練習帳を見たりできました。

二日目、まず私たちは全体交流会を行いました。それぞれ参加部門の違う5人が組になり小林一茶の「雀の子そこのけそこのけお馬がとおる」に下の句七七をつけるという課題と前日の研修に関するクイズに答えたりもしました。他の創作活動をしている方と話ができただことはとても良い経験でした。

その後、それぞれの分科会がありました。午前中に作品を書き、午後にはその講評をいただいたり、集まった人たちで作品を作る際のこだわりを聞いたり、講師の小嶋先生へ質問をしたり、事前提出作品の講評をいただいたりしました。交流や講評を通して様々な考え方や書き方、作品などが知れて、とてもよかったと思います。

三日目、記念講演では、穂村弘氏がいろいろな話を聞

かせてくださいました。事前に配られた歌の解説に自身の経験も交え、とても面白い話を聞かせてくださいました。そのお話を通じて、自分の歌の鑑賞の幅も広がったように思います。

以上の信州総合文化祭を通して、様々な方と交流できたことは、自分にとって大変大きな収穫だったと思います。今後もそれを生かして頑張っていきたいと思っています。



詩部門 下関西高等学校 3年 有村 友佑

詩部門に参加し8月7日から10日までを開催地の長野県で過ごした。

8日は壮大な開会式終了後さっそく部門別に文学研修に出かけた。県内にある文豪にまつわる記念館などを巡るこの研修では、他県の代表選手との交流や長野の文化や歴史を知る良い機会となり、初めは少し緊張気味だった全体の雰囲気も昼食あたりには緩やかに和んでいった(余談だが、この日のためだけに作られたお弁当は美味しかった。なんと一年前からメニューの検討が行われていたそう)。堀辰雄記念館では、彼にまつわる衣服や住んでいた場所、さらには堀辰雄が師として仰いだ芥川龍之介の彼に宛てた直筆の手紙などを見ることができた時に言い得ぬ感動がこみ上げてきた。山口を代表する詩人、中原中也の堀辰雄へ送った「山羊の歌」も展示してあった。一日を使っで行われたこの研修の中でも、個人的にもう一度訪れたい場所だ。

9日は全体交流会と部門別交流会が行われた。全体交流会では、5人から6人のグループに分かれて、〇×クイズや俳句創作など面白い内容の活動を行った。

今回の一つの目玉でもある部門別交流会では、グループでまず一茶カルタと言う俳人小林一茶の俳句をもとにして作られたカルタを様々な方言が飛び交う中で奪い合い、お互いを紹介しあい、交流を深めた。オノマトペ解釈では、オノマトペ(擬声語)で書かれた詩を自分流に解釈し

て互いに見せ合い、感想を述べた。同じ詩でも解釈の違いによって見せる世界観は様々であった。



次に事前に作っておいた小石についての詩をみんなで見せ合い、批評し合ったのだが、隣の芝生は青く見えるとはこのことか！ 多種多様な小石が登場し、どの作品もレベルが高く、自分の天狗の鼻がどれだけ伸びていたかを思い知るに至った。杉本真維子先生にも一人々々の作品を講評して頂き、全国やプロというフィルターを通して見直した自分の作品は、長所や短所がたくさん浮かび上がったものとなる。このことが今回、総文祭を通して得た一番の収穫だ。レベルの高さに鼻っ柱を折られたが、これも全国に行って初めて味わった体験で、とても勉強になった。

10日は記念講演会と講評・閉会式だった。講師の穂村弘先生の「言葉の不思議」と題された講話は、自分の詩にも技術面で通ずるものがあり、今回の「小石についての詩」をより深く見直すヒントが話の中に多く散りばめられていた。あまり馴染みのなかった短歌にも触れることができたいい経験でもあった。

全体の講評によると、たいしたトラブルも無く、つつがなく進んだこの総文祭は成功だったと言えるだろう。閉会式では来年の開催地である佐賀県の告知や、総括が行われた。

今回の大会を通して言えることは、全国の舞台でしかわからないものというのは確かに存在し、普段触れることのないこの感情は自分にとっての宝物となり、これからの創作の糧となるであろうということだ。三年間の部活の集大成がこうした場であったことを誇りに思う。

短歌部門 柳井商工高等学校 3年 市原 歩海

私は短歌部門に参加し、8月8日(水)から10日(金)まで、全国の文芸部員の方と交流しながら、文芸への関心を深めていった。

一日目は、開会式の後、文学研修が行われた。私は

「北信濃コース」に参加し、黒姫童話館や一茶記念館、小林一茶旧宅などを観光した。黒姫童話館では、世界各国の童話や絵本、信州の昔話などが展示してあった。また、「はてしない物語」「モモ」の作者ミハエル・エンデと、「いないいないばあ」「モモちゃんとアカネちゃん」の作者松谷みよ子を中心とした、童話作家と作品の紹介もしてあった。作家の生涯を見ると、自分が経験した事のすべてを作品作りに繋げていると分かった。移動のバスの中では、他県の生徒と会話をして親睦を深めたり、一茶の人生を紹介するアニメーションを観たりした。一茶記念館では、小林一茶の作品や一茶の顕彰活動などが紹介してあった。記念館の周辺には、一茶を慕う地元の人々によって建てられた俳諧寺や数々の句碑などがあり、そこに記された多くの俳句にも触れることができた。小さな虫にも目を向け、弱いものに寄り添う一茶の作品からは、命の尊さを学ぶことができた。

二日目はまず、全体交流会が行われた。チームに分かれて、一茶の俳句に七七を加え、短歌を考える創作活動をした。七七のアイディアは人それぞれで、こんな発想もあるのかと感嘆の声が上がるものや、思わず笑ってしまうようなユニークなものもあった。また、前日の文学研修を振り返る〇×クイズを通して、信州の文学について学んだ。楽しく活動しながら、大勢の人と打ち解けることができた。

全体交流会の後の部門別交流会・分科会では、八つのグループに分かれて創作活動を行った。サイコロに書かれたお題を使って自己紹介をした後、講師の江田浩司先生の御指導のもと、折句をしたり、前日の文学研修北信濃コースで創作した短歌を用いての歌会をしたりした。参加生徒のつくった短歌、40首の中で自分の好きな3首を選び、なぜそれを選んだのか、選ばなかったものに対してはなぜそれを選ばなかったのかなど意見を言い合い、鑑賞し合った。午後からは、あらかじめ用意していた自由題短歌一つひとつに、江田先生から講評や助言をいただいた。自分の作品を丁寧に講評し、鑑賞していただける機会は滅多にないので、良い経験となった。

三日目は、歌人 穂村弘先生の記念講演会があった。演題は「言葉の不思議」で、先生は短歌の改悪例を用いながら、的確なお言葉でわかりやすく解説をしてくださった。穂村先生御自身の経験を交えたお話はとても面白く、深みのあるものだった。紹介された、それぞれの短歌に織り込まれた物語の背景を、先生のお陰で読み取ることができ、作品に秘められた反社会性が短歌の魅力に繋がっているということも知った。

三日間、あっという間で、とても充実していた。始めは知らない地で行う、知らない人達との活動が不安でなかったが、実際に交流してみると、作品作りの苦悩や楽しさを分かち合うことができた。どの活動も今までに体験した事のない高揚感と満足感があった。この貴重な経験をこれからの創作活動の糧とし、さらに励んでいこうと思う。

俳句部門 徳山高等学校 3年 西村 陽菜

八月七日から十日にかけて、私は信州総文祭俳句部門に参加しました。

俳句部門は八月八日に文学散歩、八月九日に分科会を行いました。



文学散歩では虚子記念館や一茶記念館、善光寺などを巡りました。虚子記念館では俳人、高浜虚子の生涯や、彼の遺した俳句などの展示物を見学、虚子庵の見学などを行いました。一茶記念館では小林一茶にまつわるお話を聞いた後、常設展示や特別展示などを見学しました。またここには猫館長がおり、生徒は猫館長との触れ合いも楽しめました。善光寺では四人の俳人の句碑を見学した後、自由散策を行いました。そこで善光寺を見学したり、近くの店でお土産を買ったりしました。俳句部門では翌日の分科会に備えて、このコースをすべて巡り終えた後で、バスを降りるまでに一句投句するようになっていました。

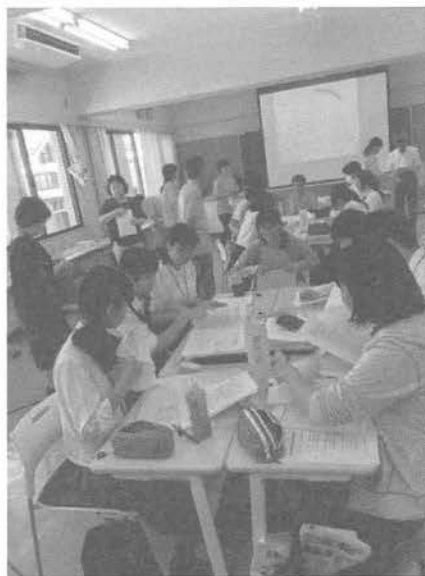
分科会では、講師の俳人の神野紗希さんと共に活動しました。まず始めに交流として、チームで一茶かるたを行いました。札を取る時に、その俳句の季語と季節を正しく言わなければ札を手に入れないというゲームで、なかなか難しかったです。その後は、事前に投句した「文房具」がテーマの句、神野さんのお話を聞いた後に作った即詠句、そして前日の文学散歩で詠んだ俳句の句会を行いました。全国の様々な俳句を鑑賞することができ、とても楽しかったです。今回の句会で私は、事前投句で講師二席、即詠句で講師二席、吟行句で生徒投票三席を頂きました。

た。

この総合文化祭で、多くの俳句に触れ、今後の活動の活力となりました。またより良い作品を創作できるよう努力したいと思っています。

文芸誌部門 西京高等学校 2年 増野 綾香

私は部誌部門での参加でした。他県の生徒との交流も深まった良い長野大会になったと思います。文学研修では、三大俳人の一人とされている小林一茶の記念館に行き、一茶の俳句を通して生涯について学ぶことが出来ました。館内の至るところに置かれた蛙の置物が印象に残っています。一茶が最期を迎えた終焉の地にも訪れ、昔ながらの建物の雰囲気と一茶の生活を感じることが出来ました。その次には黒姫童話館ではミヒヤエル・エンデ、松谷みよ子、いわさきちひろの作品に触れ、絵本への関心が深まりました。たくさんの絵本に囲まれた童話館には私が小さいころに読んだことのある絵本も置いてあり、懐かしさも感じる場所でした。お土産も豊富に置いてあったので個人的にもう一度行きたい場所です。



翌日の部門別交流会ではグループに分かれて部誌の編集を行い、オリジナルの部誌を作りました。先に飯村先生による講演を聞き、よりよい部誌作りについて学びました。今回の講演を聞き、今後の部活動に活かしていきたいと思っています。グループごとの活動では三つの作業に分担し、事前課題を元に編集をしていきました。それぞれの強みを活かした作品はとてもインパクトがあり、特に表紙には目を引き付けられるものがありました。この活動でグループの人とは交流が深まり、充実した一日となりました。

全国総文祭での体験は今後の部活動においても、私自身においても本当に貴重な経験となりました。今後もよ

りよい部誌を作れるように頑張っていきたいと思います。

4 俳句甲子園

8月19日に愛媛県松山市で開催された第21回俳句甲子園に柳井商工高校と徳山高校が県代表として出場し、徳山高校は、過去20回の俳句甲子園のうち、10回の優勝経験を誇る開成高校(東京代表)を抑えて見事日本一に輝きました。

俳句甲子園優勝報告

徳山高等学校 2年 浅原佑斗

私たち徳山高校文芸部は柳井商工と共に山口県代表として第21回俳句甲子園に出場しました。6月に防府で行われた地方大会では、初めて対戦する相手もあり新鮮な俳句、ディベートを体感することが出来ました。そして、徳山高校の全国大会に出場するメンバーの中で地区大会経験者は5人中3人。全国レベルとなると厳しい戦いになるのは目に見えていました。そこで経験者は俳句を「教える」というよりも「共に作り上げていく」ことを意識して本番を迎えました。



組み合わせ抽選の結果、徳山はC組。そこにはなんと柳井商工も含まれていました。山口県勢の不思議な縁も感じつつ互いに1日目の試合に臨みました。加えて初戦で対戦することとなり楽しんでディベートを交わすことが出来ました。

徳山は順調に試合に勝ち2日目へ。そして、本校初の2日目の決勝リーグを突破し決勝へ。破竹の勢いで勝ちを積み上げる徳山をどの高校も止めることはできませんでした。決勝の相手は開成。過去20回の俳句甲子園のうち、10回も優勝を手に入れている文字通り絶対王者です。その相手を「清」という字題のもと作られた俳句で激論を交わし、勝つことができた時には改めて俳句という文化的フィールドでこんなにも熱くなれるのだということに気付きました。同時に全国の相手は勿論、地方大会で戦った高校に

も感謝の気持ちが強くなりました。

徳山、そして山口の俳句のレベルを全国で証明する為にも大事な優勝であったと思います。来年度も俳句甲子園地方大会が開催され、心躍る俳句に出会えることを楽しみにしています。

5 中国文芸道場・中国文芸コンクール

11月9日に米子で中国文芸道場・中国文芸コンクールが開催され、山口県からは俳句と短歌で延べ5名が表彰されました。この日は俳人の佐藤文香氏の指導があり、言葉を紡ぎだすことの面白さを実感しました。



【俳句部門】

最優秀賞 草薙殺陣の稽古を終へてきて 西村陽菜(徳山高校)
優秀賞 鶉飼火のはぜてするとき緑眼よ 弘松準平(徳山高校)

6 第33回全国高等学校文芸コンクール

山口県内からは5人と一校が入賞し、12月15日(土)に代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで表彰式に臨みました。

【小説部門】

入選 宇部高校 3年 松井裕規 「前略」

【俳句部門】

優秀賞 徳山高校 2年 浅原佑斗 「天窓に」

優良賞 高森学校 1年 末廣千鶴 「夕の雨」

優良賞 徳山高校 3年 沖 大貴 「タンカーの」

入選 熊毛南高校 3年 川野愛里紗 「流星の」

【文芸誌部門】

奨励賞 徳山高校 耿光80号

7 文芸研修会

小説・詩・短歌・俳句の研修会が3月下旬に防府商工高校で開催します。今年度は防府の地にふさわしく自由律俳句の研修会も予定されています。

各部門の報告

自然科学部門

理事長 大 田 和 子

(宇部高等学校教諭)

自然科学部門の立ち上げから8年が過ぎました。少しずつ新しい高等学校からの全総文祭への参加希望が増え始め、この大会を目標に多くの部活動が積極的に活動していることをとてもうれしく思います。

今年度の長野総文祭は諏訪湖の畔にある諏訪東京理科大学で行われ、とても思い出深い大会となりました。

南北に広がる広大な面積を持つ長野県の豊かな自然に触れ、日常とは違う経験をすることができ、とても有意義な時間を過ごせたと思います。以下に、参加した生徒からの感想を掲載します。

<ポスター発表>

柳井高等学校 生物地学部顧問 松本秀樹

本文化祭に出場した3年生徒2名【写真1】は、高校1年次から部活動で毎月取り組んだ野外調査研究をもとに、高校3年での調査記録を加えて発表用のポスターを作製した。

顧問を除いて生徒だけでポスター発表した後、審査員の信州大学の先生から野外調査における測定方法等についてご指摘をいただいた。大学でされている測定と異なる方法で測定されているため、測定結果はあまり当てにならないということであった。そのため、発表した研究内容や探究したことについてほとんど検討されることなく、審査員が信州大学等で研究されていることなどを語られて去られたということであった【写真2】。

生徒は顧問の指導のもとで調査研究活動に取り組んできたので、審査時には顧問同席のうえで審査員からご指摘をいただける方が今後の研究に役立つと思った。また、生徒が毎月野外に行って1日かけて測定した結果が当てになるものだとすれば、とりまとめた研究内容や探究したことはどうなのか、審査員からコメントをいただきたいかった。

私は運動部(弓道部)の正顧問でもあるため、生物地学部の野外調査は運動部の試合等のない土日でないとい実施できないなど、毎月の継続調査は非常に困難なものであった。また、この全国総合文化祭は、8月2日開催の東海インターハイと連続しての出場であったため準備が大変であった。今後、本大会の開催時期をインターハイとかなり

ずらしていただけるとありがたいと思った。

本大会は生徒にとって、自分たちの部活動研究を発表したり、他県の生徒の研究発表を聞いたりすることで、今後の部活動等の研究活動に励みとなるよい機会になったと思う。



写真1. 出場した生徒



写真2. ポスター発表の様子

<生物部門>

高川学園高等学校 科学部

3年 城代玲志 1年 杉村香那子

1年 田原 雪 1年 林 和希

私たちは長野総文2018自然科学部門の発表に参加した。3年生は3回目の参加だったが、1年生にとっては初めての参加だった。科学部のみなでオオサンショウウオの現地調査を行い、今回の機会を得ることができた。最高の結果が得られるように研究を進めてきた。

私たちの発表は1日目にあり、今回のテーマは「微胞子虫の寄生によるオオサンショウウオの『痩せ現象』について」である。

これまでは、オオサンショウウオの生態について、一年間で新しく得られた内容を発表してきたが、今回は成体の皮膚に寄生していた微胞子虫についてであり、これまでとは大きく異なる取り組みとなった。そのため本番ギリギリまで実験を行い、最も新しい結果を発表したいと頑張っただけなのに、考察において適切な表現ができたか…と言うと、少し悔いも残った。

発表は練習通りできたが、質疑応答でミスをしてしまい、そこが今回の一番の反省点だと思う。



2日目の午前には他校の発表を聞き、午後からの巡見では中央構造線に関するジオパークへ行った。現地では山を登って地層を観察したり川辺で石灰石や蛇紋岩などの岩石を拾ったりした。その道中では、他の高等学校の方々と話をし、交流を深めることができた。



3日目は生徒交流会と閉会式があり、生徒交流会では他校の人とグループになりクイズ大会が開催された。最初はなかなか人見知りです話すことができなかったが、クイズの正解を一緒に考えているうちに、どんどん親睦が深まり、最後は笑顔で素晴らしい時間を過ごすことができた。

科学部にとって、全国総合文化祭は6年連続6回目の出場であったが、他校の発表を見ていると、私たちにかけ

ている点など、気付いたことがたくさんあった。今回の経験を、次の成功につなげていきたいと思う。



<化学部門>

山口県立宇部高等学校 2年 瀧本真理

1 研究発表

私たちは、「環境によく、割れにくいシャボン玉を作ろう」というテーマで全国高等学校総合文化祭自然科学部門の化学部門に参加させて頂いた。

私たちは、地域の祭りにシャボン玉作りのブースを出展した際、子供たちが遊ぶうちにシャボン玉液が道路上に飛び散り、清掃時大量の泡が生じたことを環境に悪いと感じた。そして、こうした課題を解決したいと考え、本研究を行うことにした。多くの人の前で発表は緊張したが、質問にもしっかり答えることができた。また、質問を受けて、これからの課題も新たに見つかった。

他の学校の人の研究発表を聞くと、どの学校も独自の研究を行っており、様々なことを学んだ。特に、教科書で疑問に思った点を追及した研究や、身近なおもちゃを題材にした研究はとても興味深く感じ、日頃から、何かしら疑問を持つことの大切さを改めて感じた。

2 ポスター発表への参加

私たちは、化学や生物など、様々な部門のポスター発表を見て回った。膨大な量のポスターが展示されており、その中でも地域と結びついた研究が特に興味深かった。グラフや図を有効に活用し、聞き手の興味を引き、なおかつ分かりやすくまとめられており、学ぶことが多く充実していた。また、実験を行う上での着眼点やその手法、そこから結論を導く過程にも驚かされることがたくさんあった。今後、私達の研究にも生かして、より良いポスターを作っていけたらと思う。

3 研修

私たちは守屋山で化石の採掘に参加した。守屋山の地形や、その特徴を知ることができ、自然の雄大さを再発見

できた。また、化石の種類から、そこが昔どんな場所だったのかを考えながら、楽

しんで採掘できた。他にも、展望台から長野の景色を観察するなど、信州総文祭では、普段出来ないような貴重な体験がたくさんでき、有意義な日々を過ごすことができた。



研究発表の様子



化石採掘の様子

<物理部門>

山口県立宇部高等学校 2年 小川結叶

1 研究発表について

私たちは、「デルタ翼紙飛行機の飛行距離について」というテーマで信州総合文化祭自然科学部門の物理部門で発表させて頂いた。

紙飛行機はその折り方や飛ばし方によって様々な飛び方をすることはよく知られているが、私たちは具体的にどのような形状や発射角度で飛行距離が延びるのかを研究した。研究発表は問題なく進み計画通りだったが、うまく答えられない質問もあったのでこれからの研究の中で明らかにして、さらに理解を深めたい。今までにないような視点からの指摘やアドバイスもたくさん頂いた。また、他の研究グループの発表からも新しい見識や実験方法のヒントを得る

ことができたので今後の研究に役立てたい。

2 巡検研修への参加について

私たちは、化石採掘の研修に参加させて頂いた。現地では、長野県の地質や化石の採掘方法など、初めての発見も多かった。少しの場所の違いでも取れる化石の種類に差があることに驚いた。化石かどうかの判別や化石がみつきやすい石など、素人の私たちには難しいこともあったが、楽しむことができた。

また、山の上の展望台からは諏訪の地形をみることができた。中央構造線や糸魚川―静岡構造線など日本の地形の特徴を掴むうえで最も重要なカギとなるものが集まっていると聞いて驚いた。見晴らしもよく長野の広大な自然を楽しむことができた。

3 生徒交流会・特別講演などについて

生徒交流会では、県外の生徒と話す機会を得ることができた。長野に関するクイズや数学的な思考を必要とする問題を協力して解くことで交流を深めることができた。

特別講演では、信州大学理学部の鈴木啓助教授が「北アルプスの氷雪から考える地球環境」というテーマで講演してくださった。

信州総文祭では、自分たちが発表するだけでなく、交流会や研修会への参加を通じて他県の高校生と交流ができた点が刺激的であった。今回の体験を今後の高校生活にも生かしていきたい。



全国高等学校総合文化祭に参加して

山口県立小野田高等学校

川崎 唯

私は、長野県松本市で行われた全国高等学校総合文化祭の総合開会式に、山口県代表として参加しました。参加のお話をいただいた時点では、私は総合開会式の様子についてまったく知りませんでした。全国各地から集まってくる高校生に出会い、交流できるという点で魅力を感じる一方、県の代表として全国の舞台に立つプレッシャーや緊張感はとても大きかったです。

開会式への参加が決まった時点で、ある宿題が出されました。開会式で入場する際に、県のPRとなる言葉を25文字以内で言えるようにという宿題でした。その25文字の中に、『宝物』という言葉を入れなくてはなりません。錦帯橋、角島大橋、フグ、瓦そば、夏みかん、みかん色のガードレール、萩焼、カルスト台地など、観光名所や食べ物がまず頭に浮かびました。吉田松陰、金子みすずなどもぜひPRしたいと思いましたが、25文字ですべてを語ることはとても無理です。私が入場する時に角島大橋の写真が投影されるということもあり、結局『海、山、カルスト台地。ぶち美しい自然が私達の宝物』としました。難しい宿題でしたが、山口県には他県にアピールできる魅力がたくさんあるのだということに気づききっかけになりました。

本番前日、引率の先生と新幹線と特急を乗り継いで、1日かけて長野へ行きました。到着した松本駅は、多くの人で賑わっていました。『信州総文祭』と書かれたオレンジ色のTシャツを着た人たちを何人も見かけて、親近感を感じました。開会式が開催されるまつもと市民芸術館の場所を確認するため歩いていると、バスやお店の入り口などあちこちに、織姫・彦星の折り紙やちょうちんなどに混ざって、『歓迎 総合文化祭』と書かれた紙が貼られていました。おそらく長野県全体で、この文化の祭典を待ち望み、全国から集う私たちを歓迎してくださっているのだと感じました。ついに本番当日、全国からどんな人たちが来るのだろうか、どんな開会式になるのだろうかという期待でワクワクし、会場に向かう足取りが速くなりました。朝8時に会場に到着すると、すでに何人も都道府県代表の人たちが集まっていて、みんな緊張しているように見えました。緊張しているのは私だけではないと分かって、少しホッとしました。

まず、ホールに入って、長野県の実行委員の人たちから、入場と発表方法の説明を受けました。その後すぐ、ス

テージ上でリハーサルが実施され、マイクの高さ調整や立ち位置など、細かく指導していただきました。



1時間半をかけて念入りなリハーサルが終わった後、私たちはいったん別室に移り、実行委員の人たちが考案されたという『おもてなし弁当』をいただきました。他校の生徒さんたちと話をしながらリラックスして過ごせましたが、ついに本番前となりました。ステージ袖で待機している間、緊張で押しつぶされそうでした。呼名され、まぶしいライトが当たるステージ中央に進み、出せる限りの大きな声で、精一杯発表しました。

代表生徒全員の入場後に開会宣言。この時、開会宣言の言葉に合わせて、私達代表生徒全員で、客席に向かってガッツポーズをしたり両手を差し伸べたりしました。その瞬間に、自分も全国の高校生の輪の一員であると感じ、感動と誇らしさでいっぱいになりました。



自分の出番が終わった後は、韓国やアメリカなど、海外招へい校や長野県の生徒さん達による演奏や舞踊の披露を前から2列目という特等席で堪能することができました。これからの学校生活、生徒会活動、すべてにおいて、大きな力、自信に繋がるような、貴重な経験となりました。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

自主事業・補助事業の報告

《自主事業》【はなしの伝統芸能「落語」】

岩国総合高等学校

【生徒感想①】

私は、今までに一度だけ、生で落語を聞いたことがありましたが、やっぱり噺家さんが違うと全体的な雰囲気も違うなと思いました。今回の落語で、一番印象に残っているのは、食べ物食べている時の演技でした。麺をすするのも、お酒を飲むのも、まんじゅうを食べるのも、まるで本物を手にもっているのかと錯覚してしまうくらいにリアルで、目が離せませんでした。劇とも、テレビとも違って、一人で何役もお芝居をするのは、すごく大変そうでしたが、とても楽しんで見ることができました。着物の着方や座布団の向きなど、落語以外の知識も知れて、日本の伝統文化の凄さを改めて実感しました。

今までよりもっと落語に興味を持ったし、本や動画も見ようと思いました。たった二つの落語でたくさんのことを学べた今回の時間は、とても有意義で楽しかったです。また機会があれば、積極的に落語と触れ合っていきたいと思います。



【生徒感想②】

今まで落語はテレビでちらっと見ただけで、真剣に聞いたことがありませんでした。そのため、ろくに聞きもせず落語をあまり面白くないものだろうと評価していました。しかし、今回初めて落語を聞いて、話にどんどん引き込まれました。扇子と手拭いのたった2つの道具で物や様子を表現し、その演技力は本当にすごかったです。そして何よりも、話の勢いがあってテンポがよく、観客が思わず聞き入ってしまう話の面白さがありました。話の最後に落ちが決まると、なるほど面白いという気持ちになりました。話を長いこと聞いていたはずなのに、今日の落語公演はあつ

という間に終わった気がします。その中でも一番に印象に残っているのが、話の中ででてきた登場人物のよたろうです。言っていることは確におかしなことではかだなと思うのに、聞いていくほどに愛着がわかりました。お父さんとのやり取りや、家をほめようとするも失敗してしまうところが本当に面白かったです。

今回の落語公演で、今まで自分がいかに落語を勘違いしていたかが分かりました。これからは、テレビで見たときには今回の公演を思い出して、見てみるようにしたいと思います。落語に興味を持てるきっかけが今回できてよかったです。



【生徒感想③】

落語はテレビで見ても面白く普通に笑ってしまうほど好きなので、今回落語を見られると知ったときはとても嬉しくて待っている時間は楽しみで仕方ありませんでした。私は人の話を長く聞いていると眠気に襲われそうになるのが毎回で少し心配していたのですが、眠気という言葉も飛ぶほどにとっても面白かったです。一人で話しているのに何人も役柄で話して目の送る場所や、仕草も全てがすごいと思いがらずと見ていました。

話だけかと思いきや、扇子の使い方やタオルの使い方、座布団の意味はとても驚きました。座布団はただ足が楽になるように敷いているだけかと思いました。裏表もあることを知って今度見てみようと思います。

お話では、みんながよく知っている童話も少しねじって聞くと、あ〜そういうことか！と思ったり、うまく言葉を使って表していることで笑いを集めているのは素晴らしいと思いました。

感動もたくさんあって一時間が本当に一瞬でした。夢を持って頑張っていたというのも教えてもらい、桂さんは本当に話している姿を見て落語を愛しているんだなと感じました。



【生徒感想④】

今回、落語という事で実際落語がどんなものか見るまでは分らなかったのですが、始まった時テレビで見たことがあるなと思いました。最初はどんな話をするのか全く予想できず、どんな話なのかな〜と考えていたら、実際に落語家さんが話をした時、本当にとても面白く、私だけでなく周りの人たちも声を出すほど笑っていたので、本当に面白かったんだと思います。

私はどうしてこんなに人を笑かすことができるのかと考えてみたのですが、やっぱり落語家の人は話すのが上手なんだと思いました。そして、演技力の上手さも落語家の人にとっては大事なものだと思います。上手だからこそ、人は見入ってしまうので演技力はとても重要だろうなと思いました。

話が上手で、演技も上手だったので生徒全員見入ったのではないかなと思います。今回の公演で、落語って面白いなと興味を持ったので、色々インターネットで調べてもっと知りたいなと思いました。いつかまた落語をみる機会があれば、みたいなと思いました。本当に楽しかったです。



《自主事業》【世界音楽旅行「ピアノとバイオリンのコンサート」】

岩国総合支援学校

【生徒感想①】

ピアノとバイオリンの音色を聴いて、とても感動しました。私が一番心に残った曲名は最初の「ビバルディーの春」です。いろいろな音が出ていて泣きそうになりました。

革命などの曲を聴けることが出来たので良かったです。私は音楽を聴くことや歌うことが大好きで、いつも車や家で歌っています。最後の「七つの子」は、いろんな出来事が浮かびました。また聴きたいです。



【生徒感想②】

私はバイオリンを生で聴くのは初めてだったので、すごく感動しました。

ピアノは、私は小さいころに弾いていましたけど、なかなかうまく出来なかったと言いますが、ピアノ伴奏やバイオリンの演奏を聴いていたら、私もまたやりたいという気持ちになりました。母と相談してピアノを一からやり直したいという気持ちにもなりました。

【生徒感想①】

美しく儚い、人と鬼の物語でした。印象に残っているのは、「言葉」についてです。この物語に出てくる言葉は、様々な喜びをもたらしました。ユキの「母ともう少し一緒にいたい」という言葉は、新しい家族と生活を、「目が見えるようになりたい」という言葉は、美しい世界を。しかし同時に、それは彼女の以前までの生活を、家族を、等しく奪っていききました。私たちは学生が故にたくさんの言葉を使います。だからこそ、言葉は新しいものを得る力も奪う力も、どちらも併せ持っていることを、この公演で実感できました。

これは、妙々たる演技、そして演出、それら全てがあつてこそ実感できたものだと思います。そしてこの体験は、私たちにとって非常に有意義なものとなりました。

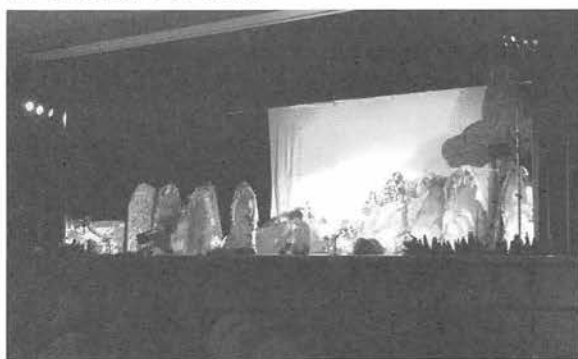
【生徒感想②】

私は、演劇に出演したことはあまりありませんでしたので、学校の先生から募集を聞いたとき、ぜひ挑戦してみたいと思いました。台本を渡されて、自分の役が決まって、楽しみという気持ちと、私にできるのかなという気持ちが、行ったり来たりしていました。そして前日リハーサルの時に、宇部芸術座の皆さんと初めてお会いして、初めて皆さんの演技を見て、私も頑張ろうともう一人の村の娘役だった子と一緒に演技の指導をしていただいているときに、一番新鮮で学ぶことが多かったです。本番当日は、演技ははじまるまですごく緊張していましたが、開演して、皆さんの劇を見ていると自然と緊張もほぐれ、自分の演技のとき

にはほどよい緊張感を持って演技することができ、とても楽しかったです。皆さんと一緒に劇やリハーサルをしたことは、私にとって最高の思い出です。

【生徒感想③】

私の友達に演劇をしている子がいて、楽しいというのを聞いて、いつかやってみたいなあ、と思っていました。元々衣装やメイク等にも興味を持っており、台本や役を決めてからはさらに楽しみになっていました。リハの時は機材や大道具なども準備をされていて、いつもとは違う場所にいるような気分になりました。本番の時は舞台袖にいて、正面から見られないのは残念だなと思ったけれど、横から見ると特別でいいなと感じました。いざ自分の番が近づくと緊張しましたが、親友と一緒にだったので、安心して話すことができました。今回の演劇は出たい人が13人程いた中で選ばれたので、とても運がよかったなと終わった後に思いました。迫力のある演技、とても素晴らしかったです。余韻がいまだに残っています。



【生徒感想①】

私はボランティア活動でよく障がいのある方とふれあう機会があります。視覚や聴覚以外に、手足が動かないなどさまざまな障害のある人がいて、抱えているものがそれぞれ異なっているけれど、共通しているものがあります。それは「心が強い」ということです。私がふれあったほとんどの方はとても明るく、「障害なんか関係ない」という素振りで、すごいと感じています。自分がちょっとしたことでよくよしているのがばからしくなります。

今回の公演で、ヘレン・ケラーがどんなに重い運命を抱えていようと、自分の努力とサリバン先生の力があり乗り越えられたということにとっても感動しました。人は一人では

生きていけないということや、誰かがそばにいて初めて幸せになれるということを学びました。



【生徒感想①】

普段、クラシックをあまり聴かない私でも知っている曲ばかりでとても楽しかった。テレビなどで聞いていたのとは全く違って強弱の迫力がすごかった。演奏する前に曲の由来や説明などがあってわかりやすく、知っていたようで知らなかったことがたくさんあった。たくさんの曲を聴いたけど、私は特に威風堂々が印象的で、小学校の頃に弾いていたのを思い出してすごく懐かしくなった。また、管弦楽の演奏や管楽器だけの演奏は聴いたことがあっても弦楽器だけだったり、木管楽器だけだったり、金管楽器だけの演奏はほとんど聴いたことがなかったのでとても貴重だった。今回の演奏を聴いて、自分はクラシックの曲をほとんど知らないと思っていたけど、意外と聴いたことがある曲がたくさんあって自分が思っているよりもクラシックが身近にあったんだと思った。またいつか今度はクラシックではない曲も聴いてみたいと思った。



【生徒感想②】

今までオーケストラの演奏を聞いたことがなく、今日初めて生で聞きました。最初のベートーヴェンの「運命」は音楽の授業で聞いたことがありましたが、生演奏で聞くと「やっぱり今まで聞いていたものとは違うな」と思いました。DVDで見ていた演奏している人と同じでカッコいいなと思いました。弦楽器だけの演奏、管楽器だけの演奏、打楽器だけの演奏など、それぞれの音色が聞こえ、美しい音色、きれいな音色で、生で聞かないとわからなかった音色だと思いました。ヴァイオリンが高い音が出て、コントラバスが一番低い音が出ること、トランペットが縦向きと横向きで吹くのでは音が少し違うことを知ることができました。

指揮をされている方が「指揮は初めをガツとする」とおっしゃった時、「なるほどー」と思いました。「始めをわかりやすいようにしないと演奏する方が入りづらく、始めがバラバラになるからか」と思いました。ディズニーの曲はあまり聞いたことがなく、知らなかったのですが、聞いたことある曲

が多かったです。

今日の山口県交響楽団演奏会を通して、私は生で聞くと迫力があり、美しい音色を聞くことができました。機会があれば、また生の演奏を聞きたいです。



【生徒感想③】

昨日は、大変素晴らしい演奏をありがとうございました。聞いていてとても心地がよかったです。弦楽器の聴き比べなど普段体験できないようなことを体験できました。「音楽はどこにでも行ける」という言葉に感銘を受けました。音楽の感じ方は人それぞれでどんな解釈をしても良いのだと分かりました。

曲もどこかで聞いたことのある音楽で聴きやすかったし、知らない曲でも楽しく聴くことができました。また、司会の方の話術、指揮の方の指揮の素晴らしさ、演奏者の方々の演奏の完成度の高さ、どれも素晴らしかったです。司会の方は聴いている人の興味を引くような話し方でした。指揮の方は曲の場面に応じて、強弱や腕の振り方も変えていて、小川の流れるようなゆったりとした時もあれば、火山の爆発のような激しさもあり、見ていて飽きない素晴らしさでした。演奏者の方々は指揮の方の指揮通りに息のピッタリ合っている演奏でした。

創立90周年の節目の時にこのような素晴らしく、また心に残る演奏を聞けてとてもうれしく思います。落ち込んだ時など心が元気でない時は山口県交響楽団の演奏会などに行きたいです。



【生徒感想①】

今回の演奏会でクラシックのより深い部分を知ることができました。音楽を聴くことで他の世界にいるような気分になることができたので、音楽は魔法だなと深く思いました。曲の1つ1つ聴くことによって、それぞれの曲によさを感じました。

私が一番印象に残っている曲は、クラシックではないけれどディズニーメドレーです。私は吹奏楽で違うバージョンのディズニーメドレーを吹いたことがあるのですが、それとはまた違った雰囲気、交響曲ってすごいなと改めて思いました。聴いていると、きれいな音や迫力のある音などたくさんあって、演奏するだけでなく楽譜に書かれている記号以上の表現をされていて、感動しました。曲によって全く違った雰囲気だったので、音楽は昔から人々に愛されていたと思いました。昔から音楽があったことはあまり想像できなかったけれど、聴いた後演奏している人々の様子が浮かんできました。クラシックをたくさん聴いて、まだ知られていないような深いことも発見して、音楽のさらによいところに気付きたいと思いました。

クラシックは改めてすごいものだと感じることができました。



【生徒感想②】

私は、保育園のころから音楽と触れ合ってきました。しかし、プロの演奏などなかなか聴きに行ったり、見に行ったりする機会がなかったため、この機会に良い演奏を聴くことができとても嬉しく思いました。

たくさん演奏して下さった曲の中にも、私たちがどこかで聴いたことが曲も組み込まれていたの、あまり音楽に興味がない人にとっても楽しめたと思います。

また、分かりやすく楽器の説明などをしてくださったので、楽器の特徴や音色を改めて知ることができた機会の一つでもあったので、とても勉強になりました。この機会を

境に、何らかの形で音楽を楽しんでいけたら良いなと思いました。



【生徒感想③】

学校でのイベントなど以外で交響楽団の演奏を生で聴くことのできる機会はないので、良い経験になったし、とても楽しかったです。題名は知っていて、聴いたことはあるだけの曲などを少し解説してくださったりしたので、ただ曲を聴くことだけに比べると、すごく深いものになったような気がします。

普段学校などのイベントで聴くときは、よくわからないクラシックばかりで、後半になるにつれて飽きてしまうことが多かったけれど、クラシックは少しで、いつもなら飽きてしまう後半に、ディズニーメドレーを演奏してくださって、飽きずに聴くことができました。

また、生徒が指揮者をやっていたりして、今までとは違う見どころがたくさんあって、ただ聴くだけではなく、楽しみながら聴くことができたし、今までは楽器の音色ばかりで、指揮者の指揮には注目をしていなかったけれど、初めて楽器だけでなく、指揮者の方にも注目しながら演奏を聴くことができました。

だから、今後もし何か生で聴く機会があったら、今までになかった視点から音楽について捉えることができそうな気がします。



【生徒感想①】

今回、吉田豊カルテットのみなさんの演奏を間近で聴いたり共演したりできて、とても良い経験をすることができました。このジャズコンサートで演奏していただいた中で長府高校の校歌をジャズ風にアレンジして吹いてくださったことが、一番印象に残りました。また、「Sing Sing Sing」と「ダンシング・ヒーロー」を一緒に演奏していただき、とてもいい刺激をいただくことができました。吉田豊カルテットのみなさんが「思ったことは失敗かどうか前にやってみることが大切」とおっしゃられていて、私は楽器を演奏するとき、楽譜にしがみついて全然楽しめていなかった気がするのですが、これからはメロディーも楽しみながら楽譜をしっかり読み込んで、吹けるようにになりたいです。

【生徒感想②】

私は初めてジャズコンサートに参加しました。ドラムの音は大きさによって全然違う空気をつくるのだと感じました。激しいところでは、私たちの手拍子の音も大きくなり元気な感じだったけど、小さくなるとほかの楽器の音を引き立てる

ような感じになっていてとてもすごかったです。音楽というのは聴くものだと思っていました。しかし、このコンサートで聴くだけでなく手拍子などで参加できるものなのだと知ることができました。「Happy birth day to you」の曲は国によってリズムが異なるというのはおもしろいと思いました。生徒が参加して演奏するのでは、ピアノはドとソだけでも一緒にできたりするなど、音楽はとてもすばらしいものだと改めて思いました。音楽は聴くだけでなく一緒に楽しむことができるので、このすばらしい機会を忘れずに、また機会があったらコンサートに参加してみたいと思いました。



【生徒感想①】

はじめてジャズの演奏を生で聴くことができました。力強く息のあった演奏で、すごい迫力でした。

いろいろな曲をジャズ風に演奏すると、普段よく聴いている曲が全然違う曲に聞こえたり、スローテンポで、しっとりした感じの曲がアップテンポになったりして、とても面白かったです。演奏中は4人とも本当に楽しい筈に演奏していて、見ている私たちも楽しい気持ちになりました。何人かの生徒と一緒に演奏しているときは、その時はじめて合わせる人たちばかりなのに、いきなり本番で演奏し始めたときは、とても驚きました。ジャズであの曲だからこそのことなのかと思うと、とても不思議な気がします。吹奏楽部と一緒にだった最後の曲も、みんなとてもかっこ良かったです。とても貴重で新鮮な体験ができて良かったです。

【生徒感想②】

ジャズを生で聴くのははじめてで、とてもかっこ良かったです。曲調のおしゃれな雰囲気が本当に素敵で、もっと聞いていたかったです。最初の曲が一人ひとりが自由に演

奏しているようなのに、最後はぴったりそろって終わったのが本当にかっこ良かったです。ドラムの枠にとられない演奏や、コントラバスの安定感が特に印象に残っています。

吹奏楽部と一緒に演奏できたのは、とても良い思い出になりました。普段やらない感じで、新鮮でした。音楽を全力で楽しんでいて、あんな風にできたら良いなと思いました。また一緒に演奏できたら良いなと思います。とても良い時間でした。



【生徒感想①】

今日の6時間目に、藤田卓也さん、岩佐靖子さんによるコンサートを開催していただきました。プログラムの曲名を見たときに、『仔犬のワルツ』『帰れソレントへ』くらいしか分からなかったのですが、実際に聞いてみると、思った以上に知っている曲も多く楽しい時間を過ごすことができました。日本の曲もあれば海外の曲もあり、またテンポや歌い方も曲によって多種多様で最後まで楽しく聴けました。藤田さんの歌声はとても太く、盛り上がったときの体育館中に響く歌声は美しく力強く迫力があり、とても感動しました。岩佐さんのピアノもきれいで繊細な音色を奏でられ、自然と心が落ち着きました。

今日のような、滅多に体験できないようなコンサートをしてくださった方々に感謝したいと思います。

【生徒感想③】

藤田さんの歌声は会場の体育館に響き渡り、とても大きく力強く感じました。日本語でない曲でも、私の心に大きく響きました。その歌詞の意味はわからなくても、声の抑揚や表情から伝わってくるものがたくさんありました。また、その歌についての説明を、普段の恋愛などに例えられ、おも

しろく感じました。

岩佐さんの独奏は、指の動きがとても速く、どの音もきれいに響いていたのが印象的でした。伴奏しているときには藤田さんの歌声に合わせた演奏をされていました。歌声が優しくなった時にはピアノも弱音になり、心地良かったです。

また、私自身ピアノを学んでいます。独奏された2曲も知っており、以前から楽しみにしていました。実際の演奏は想像以上にテンポが速く、ただただ圧倒されました。自分の演奏に活かしていきたいと思います。

今回、すてきなコンサートを披露していただいたお二人に感謝したいと思います。



【生徒感想①】

今回のコンサートで、僕はすごく感動しました。最初の曲である乾杯の歌から、すごく迫力があり、優しい歌声に響きました。また、曲が変わるごとに、藤田さんの表情が変わっていくのも、すごく印象に残りました。岩佐さんによるピアノのソロでは、ものすごく速い曲でも音がなめらかで、聴いていて気持ちよかったです。終盤の藤田さんの活舌には驚きました。曲が終わった後のトークも、社会で役立つことだらけだったと思います。今日聞いたことを今後の学校生活に生かしていきたいと思いました。

【生徒感想②】

私は音楽大好きで歌うのも弾くのも聴くのも好きです。なので、今回のコンサートは私にとってとても良い経験になりました。私はピアノを弾くことが好きなので、生のピアニストによる演奏はとても刺激的で感動しました。

素敵なピアノの伴奏に藤田さんのきれいな歌声が重な

って、耳が幸せでした。

藤田さんが生徒側へ下りてきて歌っていただいたときは、ステージでもすごい迫力があつたのに、近くになると本当にマイクをつけていないのに声通っていて、響いていて驚きました。

こんなに近くで演奏を聴けることなんてもうないと思うので、良い思い出として胸に刻みたいと思います。本当に素敵なコンサートでした！



山口県高等学校文化連盟自主事業・補助事業実施校一覧 No.1

数字は実施年度(62～63は昭和、1～31は平成)、※は今年度実施予定、(定)は定時制、(分)は分校

番号		自 主 事 業					補助事業
		青少年劇場小公演	山口県交響楽団	巡回演劇教室			
				劇団のんた	宇部芸術座	下関海峡座	
1	周防大島 安下庄校舎	63, 7, 25	4, 10	10, 21, 28			26, 27
	久賀校舎	63	3				
2	岩国	1					
	坂上分校	63, 11	5, 26	3			
	広瀬分校	63, 14, 21	17	20, 26			
3	岩国総合	1, 30	11				
4	高森		2				
5	岩国商業	3		62, 15			
	定時制東分校						
6	岩国工業		2	6, 8			
7	柳井		7	11, 29			19
8	柳井商工		11, 14	1, 4, 11, 14, 27			
9	熊毛南	63, 19(分), 27, ※31	6, 17	12, 24			20, 26, 28, 30
10	田布施農工	15(分), 18(分)	3, 18, 20, 27	5, 24	16		22
11	光	63, 20(定)	8, 23	17			21, 29
12	光丘		8, 11		14		28, ※31
13	下松	63, 7, 12	15				
14	華陵	63	8	1			※31
15	下松工業		1				
16	熊毛北		2, 14	63, 7	※31		
17	徳山	4(定), 8(定), 10(定)	15		12		
	徳山北分校	63, 21	4, 11	8			20
	鹿野分校	3, 10	9	1, 16			
18	新南陽	63	22	25	5	14	19
19	徳山商工	63, 1, 5		3, 4	7		
20	南陽工業	1, ※31	62				
21	防府						23
	佐波分校	63, 7	27	※31			
22	防府西	1	10				
23	防府商工	63(定), 1	12, 30			6	
24	山口	62(定), 15(定), 16(定)	2				27
	徳佐分校	63(分), 25, 27	63, 10, 20	13			
25	山口中央	63, 10, 12, 13					22, ※31
26	西京	62	4		7		※31
27	山口農業		5, 21		3	24	29
28	宇部	63					
29	宇部中央	1(定), 14(定)	10, 19		63, 26	30	23
30	宇部西		14, 28		10, 23		26, 27, 30
31	宇部商業	63	62, 6		3		
32	宇部工業	2, 13	8				
33	小野田	63(定), 19(定)			22, 27(定)	25	
34	厚狭	1	15, 21			9, 18	28
35	小野田工業	63(定)				4	
36	美祿青嶺	4, 22	63		17, 20, 29	10	
37	田部		1, 13		18	20	
38	西市		63	22		27	23

山口県高等学校文化連盟自主事業・補助事業実施校一覧 No.2

数字は実施年度(62～63は昭和、1～31は平成)、※は今年度実施予定、(定)は定時制、(分)は分校

番号		自 主 事 業					補助事業
		青少年劇場小公演	山口県交響楽団	巡回演劇教室			
				劇団のんた	宇部芸術座	下関海峡座	
39	豊浦						
40	長府	1					26, 30
41	下関西						19, 28, 29(定)
42	下関南	22					
43	響	5	1				
44	下関北・豊北	62	3, 28			15, 22, 29	30
45	下関工科	62, 28	12, 25, 29			2, 6, ※31	19, 20, 22
46	大津緑洋 大津校舎	63	12		5		
	日置校舎	63, 5, 9, 15	19		25	2, 13, 23	22
	水産校舎		12				
47	萩	63	3			6	24
	奈古分校	11, 17	1, 9, 24			26	
48	萩商工	63	6, 7, 16	23	9	2, 4, 12, 17	
49	下関中等教育				5		
50	岩国総合支援	3, 13, 16, 30	24	10, 19			
51	田布施総合支援	6, 17	62	30			
52	周南総合支援	15, 17, 20					
53	徳山総合支援	1, 11					
54	防府総合支援	62, 63, 3, 12, 26, 28	16				
55	山口南総合支援						
56	山口総合支援	19	14				
57	宇部総合支援	63, 5, 14	1, 9	18			
58	下関南総合支援	63, 3, 8, 10, 16	7, 25			1	
59	下関総合支援	2, 6	16				
60	豊浦総合支援	11, 13, 16, 23, 29	26			19, 21	20, 27
61	萩総合支援	6, 24					
62	下関商業	14(定)					
63	高水			62			
64	柳井学園	6		63			
65	聖光		2, 30				
66	山口県桜ヶ丘		※31				
67	誠英				7	9	
68	高川学園						
69	中村女子	63	2, 5, 22		11	16	※31
70	野田学園	63	18				
71	山口県鴻城		10, 29		12, 15		
72	宇部鴻城		7		9		
73	慶進	29	23		30		21
74	成進						
75	宇部フロンティア香川		1, 5, 15		11, 19, 28		
76	サビエル						
77	下関国際		※31				
78	梅光学院						
79	早稲						
80	下関短期大学付属	62, 63, 4, 7, 24, 26			8	28	
81	長門		6				
82	萩光塩学院						

平成30年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告

月	日	事 業	会 場
4	12	会計監査	山口中央高校
	19	第1回企画運営委員会	山口中央高校
5	11	評議員会 平成29年度集録「高文連」発行	山口市：セントコア山口
	22	公益社団法人全国高等学校文化連盟定時総会	東京：アイビーホール
	22	自主事業 巡回演劇「宇部芸術座」	慶進高校
	26 ~ 27	県高校総合文化祭「将棋部門」(主管：徳山高校)	防府市文化福祉会館
	27	県高校総合文化祭「小倉百人一首かるた部門」(主管：慶進高校)	小野田高校 武道場
	28	山口県文化連盟 総会・文化交流パーティー	山口市：ホテルニュータナカ
6	11	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	聖光高校
	14	第40回県高校総合文化祭総合開会式(主管：新南陽高校)	周南市文化会館
	15 ~ 16	県高校総合文化祭音楽4部門発表会(主管：徳山高校・周南支部)	周南市文化会館
	16	県高校総合文化祭「日本音楽部門」(主管：中村女子高校)	山口県総合保健会館
	29	第29回中国地区高等学校文化連盟 理事会及び関係者合同会議	広島県広島市：ホテルセンチュリー21広島
7	3	自主事業 巡回演劇「劇団のんた」	田布施総合支援学校
	27 ~ 29	第40回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会	滋賀県 大津市 近江神宮
8	7 ~ 11	(公社) 全国高等学校文化連盟各専門部会	長野県
	7 ~ 11	第42回全国高等学校総合文化祭	長野県(総合開会式 松本市：まつもと市民芸術館)
	8	(公社) 全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	長野県：長野市 メルパルク
	25 ~ 26	第29回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	東京：国立劇場大劇場
9	7	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	豊北・下関北高校
10	9	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	防府商工高校
	15	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	宇部西高校
	12	県高校総合文化祭「文芸部門」(主管：西京高校)	西京高校
	28	県高校総合文化祭「囲碁部門」(主管：下関西高校)	下関西高校
	24	自主事業 青少年劇場小公演 音楽世界旅行 ピアノとヴァイオリンのコンサート	岩国総合支援学校
11	3 ~ 4	県高校総合文化祭「書道部門」(主管：宇部西高校)	おのだサンパーク
	5	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	熊毛南高校
	6	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	長府高校
	9 ~ 11	県高校総合文化祭「写真部門」(主管：防府高校)	新南陽ふれあいセンター
	10	県高校総合文化祭「放送部門」(主管：下松高校)	ニューメディアプラザ山口
	10	第20回高校生文芸芸道場中国ブロック大会	鳥取県米子市：米子コンベンションセンター BIG SHIP
	10 ~ 11	第21回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会	島根県益田市：益田高校柔剣道場
	10 ~ 11	山口県中学校文化連盟第14回総合文化祭 光大会	光市民ホール
	10 ~ 11	県高等学校総合文化祭「演劇部門」(主管：山口高校)	防府市公会堂
	13	自主事業 青少年劇場小公演 話の伝統芸能「落語」	岩国総合高校
	14	自主事業 巡回演劇「劇団海峡座」	宇部中央高校
	16	第1回専門部理事長会	山口中央高校
	23 ~ 25	第56回中国地区高等学校演劇発表会	鳥取県鳥取市：とりぎん文化会館
	29 ~ 30	第30回全国高等学校文化連盟研究大会(熊本大会)	熊本県熊本市：KKRホテル熊本
	30	全国高等学校文化連盟実務担当者会議	同上
12	11 ~ 16	県高校総合文化祭「美術・工芸部門」(主管：下関商業高)	下関市立美術館
	15 ~ 16	第17回中国地区高等学校将棋選手権大会	鳥取県米子市：米子市公会堂
	25 ~ 26	第22回中国高等学校囲碁選手権大会	広島県広島市：広島市東区民文化センター
1		山口県中文連・高文連合同調査研究打ち合わせ会	山口中央高校または大殿中学校
	23	第2回専門部理事長会	山口中央高校
	31 ~ 2	第27回全国高等学校将棋新人大会	岡山県玉野市：ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル
2	2	専門部研修合唱講習会	ニューメディアプラザ山口
	2 ~ 3	第4回中国地区高等学校放送コンテスト	島根県出雲市：出雲工業高校・大社文化プレイス
	18	第2回企画運営委員会	山口中央高校
3	15	平成30年度中国地区高文連実務担当者会議	広島県広島市：広島市立舟入高等学校
	26	マーチングバンド・パトントリック講習会	岩国市：愛宕スポーツコンプレックスカルチャーセンター
	27	第38回山口県高等学校 器楽・管弦楽スプリングコンサート(主管：柳井高校)	サンビームやない
【その他】 各専門部会……………部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会…県下各地において開催予定 ※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山響)2公演、青少年劇場小公演2公演 ※補助事業4公演			

平成30年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書

収入総額 21,760,227円
 支出総額 17,703,759円
 差引残高 4,056,468円 (次年度繰越金)

収入の部					(単位:円)
区 分	予 算 額	決 算 額	増減額(減△)	摘 要	
繰 越 金	2,044,623	2,044,623	0		
加 盟 費	11,879,000	11,881,600	2,600		
内 訳	全 日 制	11,711,000	11,715,900	4,900	350円×33,474人
	定時制・総合支援	64,500	61,500	△ 3,000	50円×1,230人
	学校負担金	103,500	104,200	700	100円×1,042学級
補 助 金	3,715,000	3,715,000	0		山口県より
内 訳	県 総 文 祭	485,000	485,000	0	主催 周南地区
	全国総文祭	3,230,000	3,230,000	0	主催 長野県
参加負担金	124,000	119,000	△ 5,000		全総文祭参加校より
調整基金から繰入	4,000,000	4,000,000	0		
雑 収 入	530	4	△ 526		利息等
合 計	21,763,153	21,760,227	△ 2,926		

支出の部					(単位:円)
区 分	予 算 額	決 算 額	残額(超過△)	摘 要	
運 営 費	1,730,600	1,396,463	334,137		
内 訳	事 務 費	360,000	336,205	23,795	記念品 事務機器維持費 事務消耗品費 印維持管理費等
	通 信 費	300,000	188,642	111,358	振込手数料 電話 郵便 運送料等
	分 担 金	520,600	520,600	0	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 県文連会費
	賃 金	550,000	351,016	198,984	事務補助賃金
会 議 費	1,970,000	1,425,855	544,145		
内 訳	会 議 費	320,000	298,905	21,095	大会参加費 委員会・理事会旅費 役員保険料 会議用お茶代等
	旅 費	1,650,000	1,126,950	523,050	全国会議(長野) 中国地区会議(広島) 研究大会(熊本) 県内視察 県総文祭次年度準備委員会旅費
事 業 費	16,385,254	14,881,441	1,503,813		
内 訳	県 総 文 祭	6,995,754	6,004,268	991,486	総合開会式 各部門大会開催費
	全 総 文 祭	4,700,000	4,486,491	213,509	生徒旅費補助 引率旅費補助 運搬費 参加負担金
	自主事業	1,839,200	1,839,200	0	自主事業7公演 補助事業3公演
	大会補助金	50,000	70,000	△ 20,000	特別支援学校文化祭 文芸部門中国大会
	専門部会費	2,480,300	2,253,473	226,827	研修費 全国分担金 役員旅費・保険料等
	印 刷 費	270,000	189,129	80,871	集録 県総文祭マナー
	中高連携費	50,000	38,880	11,120	中高文連交流事業
	調整基金	0	0	0	
予 備 費	1,677,299	0	1,677,299		
合 計	21,763,153	17,703,759	4,059,394		

平成30年度 調整基金会計決算書

前年度繰越	一般会計へ繰出	今年度末残高
4,000,000	4,000,000	0

上記の通り相違ありません
 平成31年 4月 11日

監事
 監事

徳重正昭
 小土井実

平成31年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画

月	日	事業	会場
4	11	会計監査	山口中央高校
	18	第1回企画運営委員会	山口中央高校
5	10	評議員会	山口市：セントコア山口
	17	第41回県総文祭総合開会式・音楽4部門発表会 第1回実行委員会 平成30年度集録「高文連」発行	宇部市渡辺翁記念会館
	21	公益社団法人全国高等学校文化連盟地区代表者会議	東京：アイビーホール
	21	公益社団法人全国高等学校文化連盟定時総会	東京：アイビーホール
	25	専門部研修合唱講習会	山口市市民会館小ホール
25	26	県高校総合文化祭「将棋部門」(主管：徳山高校)	防府市文化福祉会館
	26	県高校総合文化祭「小倉百人一首かるた部門」(主管：長府高校)	小野田高校 武道場
6	3	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	下関国際高校
	6	山口県文化連盟 総会・文化交流パーティー	山口市：ホテルニュータナカ
	10	自主事業 巡回演劇「劇団のんた」	防府高校佐波分校(会場：徳地文化ホール)
	13	第41回県高校総合文化祭総合開会式(主管：小野田高校)	宇部市渡辺翁記念会館
14	15	県高校総合文化祭音楽4部門発表会(主管：宇部西高校・宇部支部)	宇部市渡辺翁記念会館
	15	県高校総合文化祭「日本音楽部門」(主管：早鞆高校)	下関市菊川ふれあい会館 アブニール
	28	第30回中国地区高等学校文化連盟 理事会及び関係者合同会議	山口県山口市：山口グランドホテル
7	11	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	光丘高校(会場：光市民ホール)
19	21	第41回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会	滋賀県 大津市 近江神宮
27	1	(公社)全国高等学校文化連盟各専門部会	佐賀県
27	1	第43回全国高等学校総合文化祭	佐賀県(総合開会式 佐賀市：佐賀市文化会館)
	28	(公社)全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	佐賀県：佐賀市
8		第41回県総文祭総合開会式・音楽4部門発表会 第2回実行委員会	小野田高校
24	25	第30回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	東京：国立劇場大劇場
9			
10	11	県高校総合文化祭「文芸部門」(主管：西京高校)	西京高校
	20	県高校総合文化祭「囲碁部門」(主管：下関西高校)	下関西高校
	25	自主事業 巡回演劇「劇団海峡座」	下関工科高校
26	27	県高等学校総合文化祭「演劇部門」(主管：光丘高校)	シンフォニア岩国
	30	自主事業 青少年劇場小公演 音楽世界旅行 ピアノとヴァイオリンのコンサート	熊毛南高校
	30	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	山口県桜ヶ丘高校
11	1	自主事業 巡回演劇「宇部芸術座」	熊毛北高校
2	3	県高校総合文化祭「書道部門」(主管：宇部西高校)	おのだサンパーク
8	10	県高校総合文化祭「写真部門」(主管：防府高校)	新南陽ふれあいセンター
	9	県高校総合文化祭「放送部門」(主管：徳山高校)	ニューメディアプラザ山口
	9	第21回高校生文芸道場中国ブロック大会	広島県福山市：まなびの館ローズコム
9	10	第22回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会	鳥取県大山町：大山町保健福祉センター
9	10	山口県中学校文化連盟第15回総合文化祭美術大会	美祿市市民会館
	15	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	山口中央高校
15	17	県高校総合文化祭「美術・工芸部門」(主管：宇部フロンティア大学付属香川高)	宇部市文化会館
		第1回専門部理事長会	山口中央高校
	25	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	華陵高校
	26	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	西京高校
	27	自主事業 青少年劇場小公演 話の伝統芸能「落語」	南陽工業高校
12	5	第31回全国高等学校文化連盟研究大会(山形大会)	山形県山形市：山形テルサ
	6	全国高等学校文化連盟実務担当者会議	山形県山形市：ホテルメトロポリタン山形
	13	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	中村女子高校
14	15	第18回中国地区高等学校将棋選手権大会	鳥根県松江市：すいてんかく
20	22	第57回中国地区高等学校演劇発表会	鳥根県松江市：鳥根県民会館中ホール
21	22	第23回中国高等学校囲碁選手権大会	岡山県岡山市：山陽新聞本社ビル
1		山口県中文連・高文連合同調査研究打ち合わせ会	山口中央高校または大蔵中学校
		第2回専門部理事長会	山口中央高校
2	1	第5回中国地区高等学校放送コンテスト	鳥根県米子市：米子市文化ホール
6	8	第28回全国高等学校将棋新人大会	福島県福島市：匠のこころ吉川屋
		第2回企画運営委員会	山口中央高校
3	13	平成31年度中国地区高文連実務担当者会議	山口県山口市：山口県立山口中央高等学校
		マーチングバンド・ハントワング講習会	
	26	第39回山口県高等学校 器楽・管弦楽スプリングコンサート(主管：下関南高校)	下関市：下関市生涯学習プラザ海のホール
【その他】各専門部会……………部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会…県下各地において開催予定 ※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山響)2公演、青少年劇場小公演2公演 ※補助事業5公演			

平成31年度 山口県高等学校文化連盟会計予算書

収入総額 27,485,000円
支出総額 27,485,000円

収入の部					(単位：円)
区 分	予 算 額	前年度予算額	増減額(減△)	摘 要	
繰 越 金	4,056,468	2,044,623	2,011,845		
加 盟 費	19,713,000	11,879,000	7,834,000		
内 訳	全 日 制	19,653,000	11,711,000	7,942,000	600円×32,755人
	定時制・	60,000	64,500	△ 4,500	50円×1200人
	総合支援学校 学校負担金	0	103,500	△ 103,500	31年度より廃止
補 助 金	3,715,000	3,715,000	0	山口県より	
内 訳	県 総 文 祭	1,020,000	485,000	535,000	主催 宇部小野田地区
	全国 総 文 祭	2,695,000	3,230,000	△ 535,000	主催 佐賀県
参 加 負 担 金	0	124,000	△ 124,000	参加校からの一時預り金のため予算書より削除	
調整基金から繰入	0	4,000,000	△ 4,000,000		
雑 収 入	532	530	2	利息等	
合 計	27,485,000	21,763,153	5,721,847		

支出の部					(単位：円)
区 分	予 算 額	前年度予算額	増減額(減△)	摘 要	
運 営 費	1,771,400	1,730,600	40,800		
内 訳	事 務 費	490,000	360,000	130,000	ノートパソコン 記念品 事務機器維持費 消耗品費 IP管理費等
	通 信 費	260,000	300,000	△ 40,000	振込手数料 電話 郵便 運送料等 サーバー代
	分 担 金	521,400	520,600	800	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 県文連会費
	賃 金	500,000	550,000	△ 50,000	事務補助賃金
会 議 費	1,850,000	1,970,000	△ 120,000		
内 訳	会 議 費	350,000	320,000	30,000	委員会・理事会・県総文祭準備委員会旅費 中国地区会議費 大会参加費 役員保険料 会議用茶等
	旅 費	1,500,000	1,650,000	△ 150,000	全国会議(佐賀) 中国地区会議(山口) 県内視察 研究大会(山形)
事 業 費	15,636,263	16,385,254	△ 748,991		
内 訳	県 総 文 祭	6,999,563	6,995,754	3,809	総合開会式 各部門大会開催費
	全 総 文 祭	3,900,000	4,700,000	△ 800,000	生徒旅費補助 引率旅費補助 運搬費
	自 主 事 業	1,924,000	1,839,200	84,800	自主事業7公演 補助事業5公演
	大会補助金	50,000	50,000	0	特別支援学校文化祭
	専門部会費	2,522,700	2,480,300	42,400	研修費 全国分担金 役員旅費・保険等
	印 刷 費	190,000	270,000	△ 80,000	集録 県総文ボスター 賞状
	中高連携費	50,000	50,000	0	中高文連交流事業
	調 整 基 金	4,000,000	0	4,000,000	
予 備 費	4,227,337	1,677,299	2,550,038		
合 計	27,485,000	21,763,153	5,721,847		

平成31年度 調整基金会計予算書

			(単位：円)
前年度繰越	一般会計から繰入	今年度末残高	
0	4,000,000	4,000,000	

山口県高等学校文化連盟規約

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目 的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事 業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校による文化活動行事の開催に関する事業。
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業。
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業。
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業。
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業。

(組 織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校（中等教育学校後期課程を含む。以下、「高等学校」という。）並びに高等部を設置している特別支援学校をもって組織する。

- 2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

- 2 演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送、文芸、自然科学、小倉百人一首かるたの各部門とする。

第2章 役 員

(役 員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|------------|---------|
| (1) 会 長 | 1 人 |
| (2) 副会長 | 若干人 |
| (3) 評議員 | 各加盟校に1人 |
| (4) 支部長 | 7 人 |
| (5) 専門部会長 | 16 人 |
| (6) 専門部理事長 | 16 人 |
| (7) 監 事 | 2 人 |
| (8) 参 与 | 若干人 |

(役員を選出)

第8条 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- (4) 監事及び参与は評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- 2 役員の兼任は妨げない。

(役員職務)

第9条 役員職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。
- (3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。
- (4) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し執行する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 参与は会長の諮問に応ずる。

(役員任期)

第10条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする、ただし、再任を妨げない。

- 2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会 議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げる通りとし、会長が必要に応じてこれを招集する。

- (1) 評議員会
- (2) 企画運営委員会
- (3) 理事長会
- 2 会議の議長は、会長がこれに当たる。
- 3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。
- 4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。
- 5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し決定する。

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事項
- (2) 予算及び決算に関する事項
- (3) その他、連盟の運営に係わる重要事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 評議員から委任された事項
- (2) 会務の運営及び執行に関する事項
- (3) その他、連盟の運営に係わる軽易な事項
- 2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。
- 3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。
- 4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 企画運営委員会から委任された事項
- (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経 費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の加盟費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第 17 条 この連盟の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(会計経理)

第 18 条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第 5 章 事 務 局

(事務局)

第 19 条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運 営)

第 20 条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第 6 章 雑 則

第 21 条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。

昭和 62 年 4 月 1 日制定
平成 元年 4 月 1 日改正
平成 2 年 4 月 1 日改正
平成 3 年 4 月 1 日改正
平成 4 年 4 月 1 日改正
平成 6 年 4 月 1 日改正
平成 8 年 4 月 1 日改正
平成 9 年 4 月 1 日改正
平成 15 年 4 月 1 日改正
平成 16 年 4 月 1 日改正
平成 18 年 4 月 1 日改正
平成 20 年 4 月 1 日改正
平成 21 年 4 月 1 日改正
平成 22 年 4 月 1 日改正
平成 23 年 5 月 6 日改正
平成 25 年 5 月 10 日改正

山口県高等学校文化連盟諸規程

〔 会 計 規 程 〕

- 第1条 この規定は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。
- 第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。
- 第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え全ての経理内容を記入するものとする。
- 第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、加盟費を納入するものとする。

各在籍生徒数に以下の金額を乗じたもの。但し、在籍生徒数は当該年度5月1日現在とする。

(全日制生徒)	600円
(定時制、特別支援学校高等部生徒)	50円

- 第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

昭和62年4月1日制定
平成4年4月1日改正
平成5年4月1日改正
平成8年4月1日改正
平成20年4月1日改正
平成23年5月6日改正
令和元年5月10日改正

〔 事 務 局 規 程 〕

- 第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。
- 第2条 事務局に次の職員を置く。
(1) 事務局長
(2) 事務局員 ア 事務局次長 イ 総務係 ウ 会計係
- 第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。
- 第4条 事務局次長は、事務局長を補佐する。
- 第5条 事務局総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書等に関する事項を分掌する。
- 第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。
- 第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。
- 第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。
- 第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

昭和62年4月1日制定
昭和62年7月14日改正
平成23年5月6日改正

[表 彰 規 程]

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。

(表彰の種類)

第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

- (1) 文化功労賞
- (2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数120名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

- (1) 人格、識見共に優秀と認める者。
- (2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めた者)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、各専門部において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。表彰は退職する年度または退職後に行う。ただし、専門部理事長を3期6年勤めた者は退任時に表彰することができる。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、第10条功績賞対象者のうち、全国高等学校総合文化祭表彰規定により表彰された部の指導を行った者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決する。本賞の授与は県総文祭の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

昭和62年4月 1日制定
昭和62年7月14日改正
平成 元年4月 1日改正
平成 2年4月 1日改正
平成 6年4月 1日改正
平成 8年4月 1日改正
平成15年4月 1日改正
平成18年4月 1日改正
平成24年5月11日改正
平成25年5月10日改正
平成26年5月 9日改正

山口県高等学校文化連盟旅費支給基準

〔旅費支給基準〕

- 第1条 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。
第2条 県総文祭の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。
第3条 全国高等学校総合文化祭に関する旅費の引率教員は山口県旅費規程に準じて支給する。

生徒は、〔交通費実費（学割・団体割引）＋宿泊費（大会規定料金）×2泊〕×1/3とする。

※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）
※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）
ただし、特殊な事情がある場合はその都度協議し会長が決定する。

〔調整基金細則規定〕

- 第1条 規約第4条の事業を円滑に遂行し、財務の健全化を図るため調整基金を設ける。
第2条 調整基金の額は、年度予算に計上して積み立てるものとする。
第3条 調整基金に属する現金は、金融機関への預金等最も確実な方法により保管するものとする。
第4条 調整基金は、事業執行上の財源が著しく不足する場合において、当該不足分を補うための財源に充てるときに限り、評議員会の議決によりこれを処分することができる。

附 則

- 1 この規定は、昭和62年4月1日から施行する。
- 2 この細則の施行前の調整基金については、この細則による執行とみなす。

昭和62年4月 1日制定
昭和63年4月 1日改正
平成 元年4月 1日改正
平成11年4月 1日改正
平成13年4月 1日改正
平成16年4月 1日改正
平成22年4月 1日改正
平成28年5月13日改正

平成30年度 山口県高等学校文化連盟役員

職 名	氏 名	支部・専門部	所属校
会 長 副会長	阿武慎治 須藤恒史 椎原伸彦 岩崎稔生		山口中央高校 徳山高校 柳井高校 中村女子高校
参 与	栗林正和		山口高校
支部長	河口郁史 椎原伸彦 須藤恒史 河村 隆 古谷修一 山根敬二 河村志郎	岩国支部 柳井支部 徳山支部 山防支部 宇部支部 下関支部 長北支部	岩国高校 柳井高校 徳山高校 防府高校 宇部高校 下関西高校 萩高校
専門部会長	伊藤隆昌 山田哲也 中村柔道 國清賢一 國清賢一 牛見正彦 (休部) 須藤恒史 山田哲也 河村 隆 山根敬二 須藤恒史 吉長幸視 鈴木三郎 古谷修一 土井 浩	演劇部門 器楽・管弦楽部門 合唱部門 吹奏楽部門 マーチングバンド・バトントワリング部門 日本音楽部門 吟詠剣詩舞部門 美術・工芸部門 書道部門 写真部門 囲碁部門 将棋部門 放送部門 文芸部門 自然科学部門 小倉百人一首かるた部門	防府西高校 下関南高校 萩光塩学院高校 光高校 光高校 野田学園高校 (休部) 徳山高校 下関南高校 防府高校 下関西高校 徳山高校 下松高校 西京高校 宇部高校 小野田高校
専門部理事長	近藤真美 秋本 隆 杉山和歌奈 中村 亮 中村 亮 平田直子 (休部) 濱崎 洋 河合和子 尾崎勝利 高野朝男 弘中敏之 馬木明美 河井昌枝 大田和子 青池のぞみ	演劇部門 器楽・管弦楽部門 合唱部門 吹奏楽部門 マーチングバンド・バトントワリング部門 日本音楽部門 吟詠剣詩舞部門 美術・工芸部門 書道部門 写真部門 囲碁部門 将棋部門 放送部門 文芸部門 自然科学部門 小倉百人一首かるた部門	防府西高校 下関南高校 萩光塩学院高校 光高校 光高校 野田学園高校 (休部) 徳山高校 下関南高校 防府高校 下関西高校 徳山高校 下松高校 西京高校 宇部高校 小野田高校
監 事	小土井 実 徳重正昭		防府商工高校 山口農業高校
事務局長 事務局次長 事務局員(会計) 事務局員(庶務)	西村正浩 中明聖晴 佐々木靖子 豊川真利子		山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校 嘱託

平成31年度 山口県高等学校文化連盟役員

職 名	氏 名	支部・専門部	所属校
会 長 副会長	開地元典 椎原伸彦 高橋 等 岩崎稔生		山口中央高校 徳山高校 柳井高校 中村女子高校
参 与	栗林正和		山口高校
支部長	河口郁史 高橋 等 椎原伸彦 河村 隆 西村和彦 山根敬二 竹村和之	岩国支部 柳井支部 徳山支部 山防支部 宇部支部 下関支部 長北支部	岩国高校 柳井高校 徳山高校 防府高校 宇部高校 下関西高校 萩高校
専門部会長	伊藤隆昌 山田哲也 牛見正彦 國清賢一 國清賢一 前田茂雄 (休部) 高橋 等 山田哲也 河村 隆 山根敬二 椎原伸彦 椎原伸彦 原井 進 西村和彦 土井 浩	演劇部門 器楽・管弦楽部門 合唱部門 吹奏楽部門 マーチングバンド・バトントワリング部門 日本音楽部門 吟詠剣詩舞部門 美術・工芸部門 書道部門 写真部門 囲碁部門 将棋部門 放送部門 文芸部門 自然科学部門 小倉百人一首かるた部門	防府西高校 下関南高校 野田学園高校 光高校 光高校 高水高校 (休部) 柳井高校 下関南高校 防府高校 下関西高校 徳山高校 徳山高校 西京高校 宇部高校 小野田高校
専門部理事長	近藤真美 秋本 隆 田中 睦 中村 亮 中村 亮 谷口たかし (休部) 島田憲貢 河合和子 尾崎勝利 高野朝男 弘中敏之 田中祐子 河井昌枝 大田和子 青池のぞみ	演劇部門 器楽・管弦楽部門 合唱部門 吹奏楽部門 マーチングバンド・バトントワリング部門 日本音楽部門 吟詠剣詩舞部門 美術・工芸部門 書道部門 写真部門 囲碁部門 将棋部門 放送部門 文芸部門 自然科学部門 小倉百人一首かるた部門	防府西高校 下関南高校 野田学園高校 光高校 光高校 高水高校 (休部) 柳井高校 下関南高校 防府高校 下関西高校 徳山高校 徳山高校 西京高校 宇部高校 小野田高校
監 事	小土井 実 徳重正昭		防府商工高校 山口農業高校
事務局長 事務局次長 事務局員(会計) 事務局員(庶務)	西村正浩 中明聖晴 佐々木靖子 舛井美佐江		山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校 囑託

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定
向 川 栄 美 作 詞
乗 松 美 紀 作 曲



1. てをのばせば ほら きつと だれかが ささえて くれる
2. よびかければ ほら きつと だれかが こたえて くれる

みーわ たせー ば ほら なかまが いつでも そばに いる きみ
こころ をひらけ ば ほら なかまは いつでも まって いる きみ

は ひとりじゃない さあ あは きば だた そこ う
は ひとりじゃない さあ あは ば た そこ う

ほくら のぶんか を つく る た め ー に
ほくら のぶんか を つき ず た め ー に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きつと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きつと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔はばたこう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟

「高文連」編集委員

(各部門)

演	劇	近 藤 真 美	(防 府 西 高 等 学 校)
合	唱	杉 山 和歌奈	(萩光塩学院高等学校)
吹	奏	中 村 亮	(光 高 等 学 校)
器 楽・	管 弦 楽	秋 本 隆	(下 関 南 高 等 学 校)
日 本	音 楽	平 田 直 子	(野 田 学 園 高 等 学 校)
マーチン	グバンド・パト	中 村 亮	(光 高 等 学 校)
美 術・	工 芸	濱 崎 洋	(徳 山 高 等 学 校)
書	道	河 合 和 子	(下 関 南 高 等 学 校)
写	真	尾 崎 勝 利	(防 府 高 等 学 校)
放	送	馬 木 明 美	(下 松 高 等 学 校)
囲	碁	高 野 朝 男	(下 関 西 高 等 学 校)
将	棋	弘 中 敏 之	(徳 山 高 等 学 校)
小倉百人一首かるた		青 池 のぞみ	(小 野 田 高 等 学 校)
文	芸	河 井 昌 枝	(西 京 高 等 学 校)
自 然 科 学		大 田 和 子	(宇 部 高 等 学 校)

事 務 局 長	西 村 正 浩	(山 口 中 央 高 等 学 校)
事 務 局 次 長	中 明 聖 晴	(山 口 中 央 高 等 学 校)
事務局員(総務)	佐々木 靖 子	(山 口 中 央 高 等 学 校)
事務局員(庶務)	豊 川 眞理子	

平成 30 年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高 文 連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043 山口市宮島町 6-1
山口県立山口中央高等学校内
電 話 083-922-0032
FAX 083-932-0813

表紙デザイン／濱 谷 美 里
(山口高等学校 3 年)
題名「I」

